



[大阪いばらきキャンパス]

# 経営学部



■ 国際経営学科 ■ 経営学科

## ビジネスを発見し、ビジネスを創造する経営学

立命館大学経営学部は1962年に創設され、1996年には「ビジネスを発見し、ビジネスを創造する経営学」という理念を確立、社会的課題をビジネスの視点から発見し創造的に解決する実学重視の教育を展開してきました。その特徴は、社会生活で実際に役立つ「実学」を提供していることです。特に近年は、貧困や労働に関わる問題、SDGsの観点からの社会的課題の解決や、ソーシャルビジネスも重視しています。

2006年に国際経営学科を開設してからは、グローバル人材の育成を主眼に、異文化・多文化の理解や国内外の学生が日本と海外で学びあう教学の国際化、英語開講の専門科目や独自の留学プログラムを提供し、「英語で国際経営を学ぶ」環境を

充実させています。2015年には大阪いばらきキャンパスへ移転し、外国語教育やインテンシブプログラムの強化、小集団教育の深化を図りました。

2026年からは、デジタルテクノロジーやデータサイエンス、デザインマネジメント分野を拡充し、小集団教育を基盤に学びの体系を精緻化し、主体的に問題を発見・解決する力を育成する新カリキュラムを導入します。国際経営学科では1回生から段階的に英語で国際経営を理解する仕組みを構築しました。経営学部は大学の教学理念「平和と民主主義」に基づき、教養と専門性、倫理観、国際的視野を備え、未来を切り拓く人材の育成を目指しています。

## 学科紹介

経営学部では、国際経営学科と経営学科の2学科制を採り、4年間の学びをそれぞれ「学びを知る」「学びを広げる」「学びを深める」「学びをまとめる」期間と位置づけています。ビジネス環境の変化に対応できるよう、理論と実践をバランス良く修得します。経営学科では、3回生から将来の目標に合わせて専門分野を系統的に学べる4つのコースを設け、各コースの専門能力を修得します。国際経営学科では、経営学の基礎知識を備えながら、国際的な経営やビジネスを理解するための高度な外国語運用能力と国際理解力を修得します。そのために、海外留学を強く推奨しており、英語で開講される経営学科目を豊富に設けています。



**PICK UP** 徹底した小集団教育。分野ごとに特色あるゼミナールで仲間と学びあう。

### 国際経営学科

永島正康特任教授ゼミナール/日本企業の国際経営を考える



日本企業の国際経営（国境を越えて、人、モノ、金、情報といった資源をいかに上手く使いこなすか）について、現場観察を通して実践的に考えます。本ゼミナールでは学生の主体性を重んじているため、具体的なスケジュールや運営方法は、全てゼミナールで話し合い、決定します。

### 経営学科

菊盛真衣准教授ゼミナール/マーケティングと消費者の関係を解き明かそう



ゼミナールではマーケティングと消費者行動をテーマとしており、学生たちは製品や価格、広告等のマーケティング要素が消費者の心理・行動にどんな影響を与えるのかを研究しています。消費者にまつわるさまざまな現象が「なぜ」起きたのか、その問いを大切にするように教えています。

## 経営学部の特長的な学び

### 海外で国際経営を学ぶ 経営学部独自留学プログラム「BSA (Business Studies Abroad)」

欧米、アジア、オセアニアの大学(主にビジネススクール)でビジネスに特化して学ぶ経営学部独自の留学プログラムです。外国語のレベルや目的別に、短/中/長期の留学と、海外インターンシップの4タイプを設けています。

経営学部からの海外留学派遣者数は、全学部共通のプログラムも含め、合計156名(短期:77名、中長期:79名)と、立命館大学の中でも多くの学生がチャレンジしています(2024年度)。短期、長期のプログラムを組み合わせる複数回留学する学生もいます。

詳しくはこちら



**選べる4タイプ** ※いずれのプログラムも4年間での卒業が可能です。

- BSA I (期間: 約1カ月間)
 

主に1回生の夏期休暇に実施。海外の大学で語学や基礎的な経営学を学びながら現地企業見学などを行います。また、国際交流や異文化理解も体験できます。引率教員も同行するため、海外が初めてでも安心して参加できます。
- BSA I Plus (期間: 約1カ月間)
 

1回生から参加できるプログラムで、夏期休暇の約1か月を利用して、ビジネス英語やグローバルビジネスについて英語でのディスカッションやケーススタディなどの学修を行い、専門科目を英語で理解できる能力を磨きます。
- BSA III (期間: 約6カ月間)
 

2回生から参加できるプログラムで、英語でビジネスに関する授業を受講するとともに、アメリカ・フロリダ州のウォルト・ディズニー・ワールドなどの企業にて実務研修を行い、国際社会で必要とされるビジネス感覚と語学力を養います。
- BSA II ●BSA IV (期間: 1セメスター〜1.5年間)
 

2回生から参加できるプログラムで、ビジネススクールや経営学部を有する海外の大学で経営学に関する専門科目を他言語で受講し、仕事で使える高度なコミュニケーション能力や国際経営の専門知識の修得を目指します。

### グローバルに活躍できる人材を育成する4つの「インテンシブプログラム」

#### 会計キャリアプログラム

公認会計士や税理士などへの登竜門である「日商簿記1級」合格を目指すとともに、系統的学習プログラムを通して、企業の経理・会計部門で即戦力となる技能を修得します。本プログラムにおいて、2024年度では、日商簿記1級に4名が合格しました。公認会計士試験では51名(うち、29名が経営学部の在学・卒業生)が合格しました(全国9位、西日本4位)。



詳しくはこちら



#### 創発系デジタル人材育成プログラム

PSSD(製品サービスシステムデザイン)を通じて、デジタル技術を活用し、付加価値のある新事業創出・起業等を担う創発系デジタル人材を育成します。企業の寄附講義などを通じてアントレプレナーやDXの先端事例に触れる機会を多く設け、企業としての戦略と現場の課題を結びつけながら学びます。



#### アジアビジネスプログラム

将来的にアジアのビジネスに精通し、新しいビジネスを発見し創造できる人材を育成します。通常の講義に加えて、東南アジアや中華圏の企業訪問を行うテクニカル・ビジットや、韓国の大学への短期留学プログラムなどで構成されています。

アジア圏からの留学生との交流なども積極的に行います。



#### 産官学連携事業継承教育プログラム

中小企業経営の真髄と事業継承の課題とポイントについて学びます。同時に、立命館大学経営学部事業継承塾を開講し、春学期は、自分と家業との関係を知る自分史コンテストと今の中小企業経営の切迫する課題解決にチームで挑む中小企業経営課題解決コンテストを実施します。



## 4年間の学び

3回生進級時にゼミナールとコースを選択(コース選択は経営学科生のみ)				
学年	学びを知る 1回生	学びを広げる 2回生	学びを深める 3回生	学びをまとめる 4回生
学びの流れ	基礎演習を通じて大学での「学び」を知ります。また、経営学の基礎科目を履修し、基礎的な知識や考え方、分析方法を修得します。	学科・コース指定専門科目を履修し、経営学の基礎を固めます。また、興味・関心や専門的な力量形成を目指し、「プレゼミ」や4つの「インテンシブプログラム」での学びを通して、経営学を広く知り、多様な学びに挑戦します。	学科・コース展開科目を履修します。あわせて、ゼミナール(専門演習)の履修を開始し、講義と小集団科目での学修を通して、専門性を深めます。	ゼミナール(専門演習)を継続的に履修し、より専門性を深めつつ、4年間の学びの集大成として「卒業論文」の執筆を行います。
国際経営学科	国際経営論 英語経営学入門Ⅰ・Ⅱ アジア経済論(A)	Integrated Marketing International Business Corporate Accounting 近代アジア経済史	国際マーケティング論 Strategic Marketing International Strategic Management Global Business Management 国際人的資源管理論 Cross Cultural Management Human Capital Management 日中ビジネス論(A) アジア経営論(A) 比較経営史 比較企業論 International Accounting 国際金融論	国際マーケティング論 Strategic Marketing International Strategic Management Global Business Management オペレーション・リサーチ 経営情報論 データサイエンス論 生産システム論 技術革新論 ベンチャーファイナンス(E)
戦略	経営戦略論 経営統計論 技術経営論 アントレプレナーシップ論(E)	事業開発論(E) 情報システム論 産業技術論 ベンチャー企業論(E)	企業ネットワーク論 イノベーション戦略論 戦略経営論 International Strategic Management Global Business Management オペレーション・リサーチ 経営情報論 データサイエンス論 生産システム論 技術革新論 ベンチャーファイナンス(E)	企業ネットワーク論 イノベーション戦略論 戦略経営論 International Strategic Management Global Business Management オペレーション・リサーチ 経営情報論 データサイエンス論 生産システム論 技術革新論 ベンチャーファイナンス(E)
マーケティング	企業と経営 企業と会計 マーケティング論 経済学入門	デザインマネジメント論 交通システム論	マーケティング・マネジメント 製品開発論 消費者行動論 国際マーケティング論 Strategic Marketing サービス・マネジメント論 小売マネジメント論 広告論 デザイン戦略論 デザイン組織論	マーケティング・マネジメント 製品開発論 消費者行動論 国際マーケティング論 Strategic Marketing サービス・マネジメント論 小売マネジメント論 広告論 デザイン戦略論 デザイン組織論
組織	マネジメント論 企業論 アジア経済論(A)	組織行動論 経営史 近代アジア経済史(A) International Business	経営組織論 人的資源管理論 国際人的資源管理論 非営利組織論 企業倫理論 環境経営論 比較経営史 Cross Cultural Management Human Capital Management 比較企業論 中小企業論 日中ビジネス論(A) アジア経営論(A)	経営組織論 人的資源管理論 国際人的資源管理論 非営利組織論 企業倫理論 環境経営論 比較経営史 Cross Cultural Management Human Capital Management 比較企業論 中小企業論 日中ビジネス論(A) アジア経営論(A)
ファイナンス	会計学 金融論	企業分析論 資金調達論	管理会計論 原簿計算論 監査論 実証会計論 財務会計論 連結会計論 International Accounting 証券投資論 コーポレートファイナンス 国際金融論	管理会計論 原簿計算論 監査論 実証会計論 財務会計論 連結会計論 International Accounting 証券投資論 コーポレートファイナンス 国際金融論
国際経営学科・経営学科共通	(学部共通専門科目) 簿記入門Ⅰ・Ⅱ 基礎統計 経営のための数学Ⅰ・Ⅱ 情報処理演習 BSAⅠ(留学) データサイエンス演習基礎	情報処理 英文簿記Ⅰ・Ⅱ 民法Ⅰ・Ⅱ BSAⅡ・Ⅲ・Ⅳ(留学)	日本経済論 世界経済論 ミクロ経済学 マクロ経済学	組織の経済学 会社法 商法 金融法 税法 労働法 国際取引法
小集団	基礎演習 プロジェクト研究 プロジェクト研究(GBL型)		プレゼミ	専門演習Ⅲ・Ⅳ 卒業論文/ビジネスレポート
	インテンシブプログラム(アジアビジネスプログラム、創発系デジタル人材育成プログラム、会計キャリアプログラム、産官学連携事業継承教育プログラム)			

・上記は2026年度に実施する予定のカリキュラムです。科目名称等が変更になる場合があります。  
 ・学部の専門科目とは質的に異なる、幅広い分野の知識の修得を目指す科目を多数履修することができます。 → 教養科目 [P.102] 科目についての詳細は [オンラインシラバス](#) [立命館](#) [検索](#)

**外国語の選択** 〈国際経営学科〉英語コース:[必修]英語 / 2言語英語重視コース、2言語初修重視コース:[必修]英語 [必修]下記初修外国語から1言語  
 〈経営学科〉英語コース:[必修]英語 / 2言語コース:[必修]英語 [必修]下記初修外国語から1言語  
 【初修外国語】ドイツ語/フランス語/スペイン語/中国語/朝鮮語

#### [2026年度 教員・研究テーマ一覧]

東 健太郎 企業の社会環境報告	寺崎 新一郎 人々の認知や感情、行動の背後にある心的メカニズムを読み解く
池田 伸 新領域のマーケティング: クリエイティブ産業、デジタル化、ビジネスモデル	徳田 昭雄 「経営ストーリー」×システム&デザイン思考×PBLで課題解決
石井 隆太 マーケティング戦略と流通チャネルの実証分析	中原 翔 組織の不祥事や不正、企業倫理
石川 亮太 韓国の経済と社会	中村 志保 海外進出日本企業の国際人的資源管理 ―グローバル人材の育成―
猪口 真大 新興国・途上国の金融システムおよび国際資本移動	中村 真悟 顧客・社会・環境に配慮した生産活動とは
今井 まりな 新製品開発に関する研究と実践	永島 正康 日本企業の国際経営を考える
林 永周 PBL(課題解決型学習)とまず動くことにより、新しい価値創造に必要な能力を身に付け、アントレプレナーになる	西岡 正 構造変革期のもつくり企業・地域企業の経営を考える
植田 展大 地域から考える経営史 中長期的な視野で地域の産業・企業に潜在する課題を捉え、解決策を探る	西谷 順平 USCPA(米国公認会計士)試験を通した米国会計監査研究
大浦 啓輔 管理会計システムと会計情報の有用性	范 騰達 コーポレートファイナンス(コーポレートガバナンス、ESG)
金森 絵里 日本企業の財務諸表分析	日高 優一郎 新しい市場が創られていくとき、社会や家族の規範はどのように関わることか
菊盛 真衣 マーケティングと消費者行動における理論と実証	FAZEKAS Balazs 優れた企業・成功するイノベーションのための戦略的ネットワーク構築を考える
岸田 未菜 国際比較から考える日本企業での働き方	何 格尔 新興国(特にアジア)発の多国籍企業、国際経営における非市場戦略
木下 明浩 環境変化の中での顧客価値創造	堀井 信志 管理会計からみた経営実践の理解
桐畑 哲也 ベンチャーキャピタル	松浦 総一 会計・経営のデータ分析
金 昌柱 「クリエイティブ・マーケティング」はどのように企業の成長エンジンを加速させるのか?	三谷 英貴 コーポレートファイナンスを通して企業経営を考える
黒木 正樹 アントレプレナー(起業家)とイノベーション	宮田 幸子 途上国・新興国(主にアジア)におけるビジネス・経済活動の実証分析
久保田 典男 中小企業の経営について現場から学ぶ ―中小企業の経営課題を把握し事業展開の方策を考える―	苗 苗 新しいビジネスの在り方から国際マーケティングを学ぶ
小久保 みどり 変動する企業組織と働く人々の心理と行動	守 政毅 アジアの新興市場をめぐる企業の国際経営戦略
小島 愛 少子高齢化時代における公共・非営利セクターの貢献	守屋 貴司 現代社会の「働き方」と「働き方」に関する研究 ―就活PBLと事業継承教育―
後藤 智 デザインの思考と組織開発	森 祐介 ゲーム理論と組織の経済学
小林 磨美 コーポレートガバナンスとコーポレートファイナンス	森 尊文 多国籍企業の知識戦略
近藤 宏一 サービス・マネジメントの基礎理論と応用	八重樫 文 「メディアをデザインすること」で何ができるか: 現代社会の諸問題に挑み、経営学におけるメディアデザインの有用性を明らかにする
呉 懿 財務報告書で読み解く国際経営	山崎 敏夫 企業経営の国際比較研究 ―日本とドイツの戦後を読み解く―
佐藤 典司 デザインによるブランドづくり	山崎 文徳 技術経営の視点からビジネスや社会の課題にアプローチする
佐野 宏樹 国際性に付随するオペレーションズ・マネジメントの諸問題	横田 明紀 情報システムまたは情報と企業および社会
SUOLINGA 国際人的資源管理、中小企業の国際化	善本 哲夫 実験経営学: 科学技術イノベーションの社会的付加価値化
濠 博 会計基準・監査基準のオントロジー工学による分析	依田 祐一 顧客価値を創造するビジネスシステム(ビジネスモデル)の研究
田中 力 統計データによる地域の経営と社会の分析―衣食住を中心に地域の社会的分業を捉える―	RAUPACH Sumiya Joerg Strategic Sustainability Management
田中 祥司 マーケティングの視点で考えるツーリズム	SCHLUNZE Rolf Dieter Constructive Intercultural Management
谷川 智彦 組織で活動する個人に関する研究	
土橋 力也 プラットフォーム企業の競争戦略	

詳しくはこちら





[大阪いばらきキャンパス]

# 政策科学部



## 政策科学科

政策科学専攻 / Community and Regional Policy Studies 専攻 英語・9月

## 21世紀を生きる新しい学問 それが政策科学

政策科学部は1994年に設立されました。現在国内の政策系学部・学科・専攻は80以上ありますが、「政策科学部」と称するのは立命館大学のみです。なぜ政策科学という名にこだわるのか？それは、政策科学という新しい学問を探究していくからです。

人文・社会・自然科学を問わず、学問の世界では細分化が進んでいますが、これでは現代社会が直面する複雑な問題には対処できません。既存の学問の壁を乗り越えた視点から、問題を発見し、現状を分析し、政策を提言する力が必要です。政策科学部では、「公共政策系」「環境開発系」「社会マネジメント系」の3つの学系を柱とする学びを展開し、それぞれの学系を系統的・横

断的に学ぶことで、複眼的で多角的な視野を獲得します。

また社会的に解決すべき課題は、国や地域を超え、互いに関連し、影響しあっています。政策科学を学ぶ上で、異なる文化や価値観を理解し、国を超えた視点で問題を捉える国際的視野は不可欠です。政策科学部にはカリキュラムが全て英語で行われるCommunity and Regional Policy Studies (CRPS) 専攻が用意されており、さまざまな国や地域出身の学生たちと共に学ぶことができます。また英語以外のヨーロッパ言語とアジア言語の10言語から1言語選択して学ぶことができ、言語バリアを意識しないバイタリティーを身に付けます。

英語・9月 授業を英語で行う科目のみで学位取得に必要な単位を取得でき、9月入学ができる学科・専攻・コース

## 学びの特色

### 学際的な学び

政策科学部は、法学、政治学、経済学、経営学、福祉、環境、都市計画、工学などさまざまなバックグラウンドを持った教員で構成しています。



### 実践を通じて政策科学の視点を学ぶ〈PBL〉

政策科学部では、社会科学を中心とする諸分野の基礎を学び、海外を含むフィールド（現場）で実践し、そのプロセスで得た知見と理論を交互にフィードバックすることで学びを深めていく、PBL (Project / Problem-Based Learning : 問題解決型学習) の学びを重視しています。



### 研究の成果を競い合う〈PSアカデミック・フェスタ〉

政策科学部では、学生が研究成果を発表する機会を豊富に設けています。中でも12月に行われる「PSアカデミック・フェスタ」では、各回生の優れた研究成果の発表やコンペティションが行われます。発表の内容はもちろん、政策を実現するためのプレゼンテーション能力、グループのチームワークも試され、政策科学部の一年の学びの集大成となるイベントです。



## 学びの特色

### 国際的な学び

#### Community and Regional Policy Studies (CRPS) 専攻

政策科学部には、日本語での授業を基本とする政策科学専攻と全ての授業を英語で行うCommunity and Regional Policy Studies (CRPS) 専攻があります。CRPS 専攻では、さまざまな国や地域の学生が集まり、それぞれの国や地域が抱える諸課題を共有しながら学びを深めています。一定の語学基準を満たせば政策科学専攻の学生でもCRPS 専攻の科目を受講でき、国際的で多様性溢れる環境で学ぶことができます。



#### 外国語教育〈英語+10言語〉

政策科学部の外国語教育は、チャレンジ精神を持ち、英語を含む複数言語を用い、世界で活躍できるグローバル人材の育成を目指しています。英語でのコミュニケーションを基礎として、現地語でコミュニケーションがとれることも重要な要素です。政策科学部では、英語で政策科学を学ぶ科目「政策英語科目 (EPS)」と英語以外の初修外国語を学ぶ科目「グローバル言語科目 (LGA)」を設置しています。EPS 科目では、英語のみで授業を行う科目や、英語の専門書を講読する科目などがあります。また、LGA 科目では、5つのアジア言語 (中国語、朝鮮語、ベトナム語、タイ語、インドネシア語) と5つのヨーロッパ言語 (フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語、イタリア語) から1言語を選択して学ぶことができ、いずれの言語も政策実践の現場に関わる実用言語・教養言語として学びます。

#### 海外フィールド〈学部独自留学・特定プロジェクト (海外)〉

立命館大学では全学部の学生が参加できる留学プログラムを実施していますが、政策科学部では、政策科学部生のみが参加できる学部独自の留学プログラムも実施しています。言語科目・演習科目と連動しており、言語・フィールドを積み重ねながら、政策科学を学ぶことができます。

また2回生で受講する「研究実践フォーラム」では、共通のテーマに関心を持つ学生同士で研究グループ (プロジェクト) を編成し、調査実習を行います。プロジェクトは、学生が自主的にテーマを設定した「自主プロジェクト」と、学部がテーマを提供する「特定プロジェクト」があり、特定プロジェクトには、海外をフィールドに調査を実施するものもあります。「政策英語科目 (EPS)」や「グローバル言語科目 (LGA)」で得た言語運用能力を生かし、海外での調査実習に取り組みます。



カナダプロジェクト  
在カナダ日本大使館でのヒアリング



タイプロジェクト  
スラム地区での調査

### 「探究」と政策科学部

高校で必修科目となっている「総合的な学習 (探究) の時間」 (探究学習) は、生徒が自らの興味や関心に基づいて問題を発見し、その解決に向けて自主的に調査・研究を行う学習です。この探究学習のプロセスは、政策科学部での学びと密接に関連しています。

政策科学部では、「公共政策系」「環境開発系」「社会マネジメント系」の3つの学系を幅広く学ぶことで、複眼的で多角的な視点から、問題を発見することができます。また政策科学部では、実践を通した学びを重視しており、学問的な知識を深めるだけでなく、実際の社会課題に取り組みながら解決策を考える経験を積みます。さらにグループワークや研究発表を通じて、論理的思考、批判的思考、多角的思考といった問題の解決に必要な力を身に付けることができます。

このように高校での探究学習で培った問題発見力と問題解決力は、政策科学部でさらに深めることができ、社会で役立つ実践的な力へと成長させることができます。

## 4年間の学び

回生		1回生【発見】		2回生【調査】		3回生【探究】		4回生【発信】	
学びの流れ		多角的な視点を養う		フィールドワークで現場を調べる		ゼミナールで興味のあるテーマを探る		学びの成果を社会へ発信する	
政策科学専攻	学術的基礎科目 (M/C) Meta-Learning Courses	ビジョン基礎科目	災害と安全 法学基礎 I・II	比較制度 Area Studies Reading	社会思想史	※○には、Chinese, Korean, Vietnamese, Thai, Indonesian, French, German, Spanish, Russian, Italian 各言語名称が入ります。 ※「○」で学ぶ文化・社会」及び「映像・CALL で学ぶ○」は全ての語種で開講されるものではありません。			
	ビジョン展開科目	学部の専門科目とは質的に異なる、幅広い分野の知識の修得を目指す科目を多数履修することができます。→ 教養科目 [P.102]							
	VB特殊講義	ビジョン特殊講義							
	情報技法科目 (IM) Information and Methods	政策情報処理 統計学 プログラミング フィールド調査法	調査分析技法入門 情報科学入門 データ分析	社会調査法 ゲーミング&シミュレーション	地域空間分析 情報技術マネジメント	地域環境調査 I・II			
政策科学基礎科目 (MP) Meta-policy	政治学 I・II 現代経営学入門 サステナビリティ学入門	公共政策 ミクロ経済学入門 政策工学入門 まちづくり入門	憲法 政策過程論 環境科学 国際学入門	政治過程論 マクロ経済学入門	公共哲学 政治文化論				
グローバル言語科目 (LGA) Language for Global Actions	LGA 入門		○で学ぶ文化・社会 1 ○で学ぶ文化・社会 2 ○で学ぶ文化・社会 1 ○で学ぶ文化・社会 2	○で学ぶ文化・社会 1 映像・CALL で学ぶ○1 ○で学ぶ文化・社会 1 映像・CALL で学ぶ○2 ○で学ぶ文化・社会 2 映像・CALL で学ぶ○2					
公共政策			民法 I・II 国際機構論 比較文化論 情報社会論 グローバルガバナンス 国際学入門 Policy Science Reading I	行政法 I 日本政治史 政策評価 日本と東南アジアの地方自治体 国際公共政策 国際政治経済論	行政法 II 行政学 I・II 政治意識論 Policy Science Reading IV	現代政治理論 地域政策論 債権法			
社会マネジメント			財政学 雇用政策論 非常利組織論 比較福祉社会論 国際経済学 社会保障政策 マーケティング政策論 Policy Science Reading II	公共経済学 コミュニティ福祉論 戦略経営論 都市経済論 開発経済論 金融論 経済政策 企業組織論	消費者行動論 ビジネスプラン パブリック・マネジメント論 社会的企業論 戦略分析 Policy Science Reading V	地域経済論 社会福祉政策 福祉経済論 地方財政論 組織ネットワーク論 財務分析			
環境開発	減災政策		都市計画 都市マネジメント論 環境経済学 資源エネルギー論 コミュニティ政策論 国際環境政策 Policy Science Reading III	住宅政策論 エコライフ政策 都市景観論 地域デザイン調査 計画理論 政策分析	コミュニティ防災論 都市・環境法 都市環境法 政策分析 交通計画 Policy Science Reading VI	システム科学 環境社会学 戦略的環境アセスメント 環境経営論			
(共通) 演習 実習 特殊講義	政策科学入門 基礎演習 プロジェクト入門 政策科学特別実習 1 PLC 特殊講義 Contemporary Issues in Policy Science I・II	Academic Workshop Introduction to Social Sciences I・II EPS Project I・II Research Workshop	研究実践フォーラム I・II オンライン調査演習 政策科学特別実習 2	Field Research Work Shop Policy Studies I・II EPS Project III・IV	政策構想演習 I・II 政策科学特別実習 3 EPS Project V・VI・VII Policy Studies III	政策構想演習 III 学士論文 EPS Project VIII			

・上記は2026年度のカリキュラムです。2027年度は科目名称等が変更になる可能性があります。

科目についての詳細は [オンラインシラバス](#) [立命館](#) [検索](#)

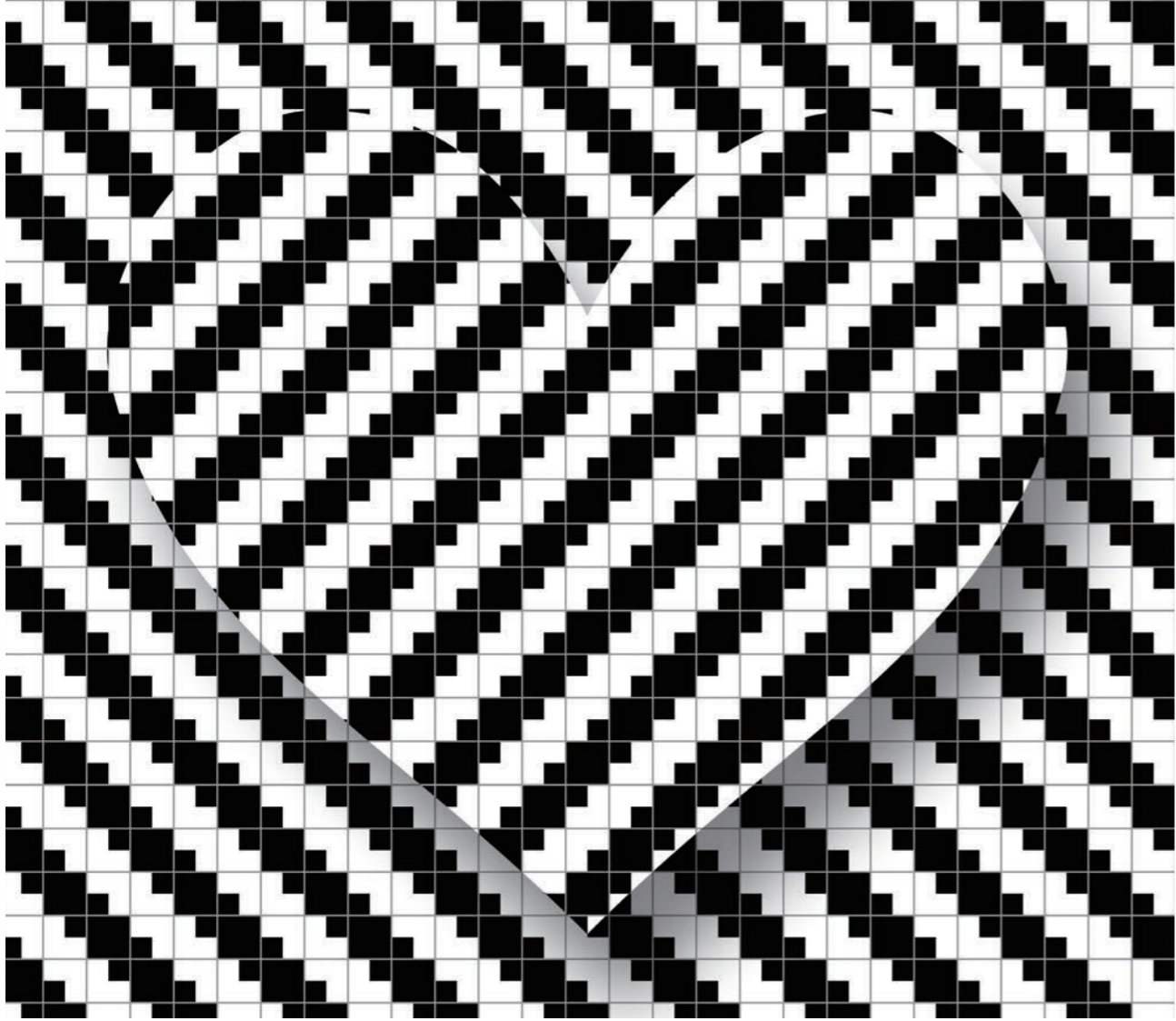
外国語の選択	<b>【必修 (EPS)】</b> : 英語 <b>【必修選択 (LGA)】</b> : 中国語 / 朝鮮語 / ベトナム語 / タイ語 / インドネシア語 / フランス語 / ドイツ語 / スペイン語 / ロシア語 / イタリア語 から1言語選択
--------	---

#### [2026年度 政策構想演習 (ゼミナール) 担当教員・研究テーマ一覧]

詳しくはこちら ▶

公共政策系	
角本 和理	情報通信技術の発展と民法政策
上久保 誠人	現実的・学際的に政策に挑む「リアリスティック・ポリシー・サイエンス」
城戸 英樹	先進国の政治・行政・政策
成田 大起	政治哲学から考える公共政策
環境開発系	
安藤 悠太	サステナビリティに関わる学際融合研究
井ノ口 宗成	安全・安心な社会実現に必要な危機リスクへの向き合い方
鐘ヶ江 秀彦	Society5.0時代におけるスマートシティのプランニング領域に関する研究
小杉 隆信	資源・エネルギー・環境問題の政策分析
式 王美子	都市空間・居住・格差に関する政策研究
豊田 祐輔	政策科学からアプローチする防災
中野 勝行	ライフサイクル思考に基づいた環境影響評価
山出 美弥	人が集まる場をつくる：まちづくりとコミュニティ・デザイン
吉田 友彦	シュリンキング・シティの統計・GIS分析による都市政策

社会マネジメント系	
飯田 末希	消費文化とジェンダー・セクシュアリティ
石川 伊吹	企業の競争優位とイノベーションのダイナミクス研究
稲葉 光行	学習コミュニティと情報技術
大塚 陽子	ジェンダー平等は福祉社会の持続性をどう高めるのか
小田 尚也	発展途上国が抱える様々な問題を考えるゼミ
小島 直子	言語とコミュニケーション
坂西 明子	地域経済と労働に関する研究
桜井 政成	コミュニティ・ナラティブを探る
SCHROEDER MARTIN	政策科学的視点から分析する国際経済
田村 正興	実証経済学
服部 利幸	政府と企業
福井 春菜	外国語教育に関する研究
森 裕之	自治体財政と都市政策
吉本 康子	多文化社会における課題を人類学的な観点から考える



[大阪いばらきキャンパス]

# 総合心理学部



## 総合心理学科

### 「人間」そのものを深く知り、社会のさまざまな課題を解決する力を身に付ける

一般に「心理学」というと、個人の悩みを対象としたカウンセリングや性格分析などが主にイメージされます。しかし、それはごく一面にすぎません。心理学は、個人はもとより家庭、学校、企業、地域、国際社会など、さまざまな場で発生する「人間」そのものに起因した課題について、総合的かつ実践的にアプローチする学問です。

近年、グローバル化の進展、SNSの普及、AIやデータサイエンスの発展とともに、社会と個人とのつながり方が大きく変化しています。それに伴い、現代の複雑な課題を発見し解決するために、人間についての科学的・実践的知見を有した人材がますます必要となってきました。

総合心理学部では、基礎から応用にいたる心理学の諸分野に加え、人類学、哲学、社会学、経済学など人間に関する隣接学問分野を総合的に学べる自由度の高い履修体系を整えています。学生は履修モデルに沿って自分の進路を考えながら、人間の心と行動、成長による心の発達の様相、そして心と社会・文化との関係についての専門的知見の形成と、臨床や産業の現場で発揮できる実践的応用力の修得を目指します。

卒業後の進路は、大学院進学、心理専門職をはじめ、行政や企業、そしてグローバル化する現代社会に貢献できるさまざまな職種を想定しています。

## 4年間の学び

総合心理学基礎科目で心理学および隣接領域を幅広く学んだ後に、自分の進路を考えながら履修モデルに沿って総合心理学専門科目を履修します。総合心理学専門科目では下位区分として「認知・行動」「発達・キャリア」「社会・文化」を設け、心理学の専門分野を系統的に学びます。また「ヒューマンデータサイエンス」「実践」「特殊講義」では自分の目的に応じて研究力と実践的応用力を身に付けていきます。

### 認知・行動

知覚心理学や認知心理学、行動分析学、認知行動療法をはじめとする領域の専門的知識を学修します。実験的な手法を用いて、特に量的なデータを扱った研究ができる学生を育成します。

### ヒューマンデータサイエンス

統計法やデータ解析などのデータサイエンス関連科目に加え、心を測定するための方法を体系的に学修します。研究から社会の現場まで幅広くデータを扱うことができる学生を育成します。

### 発達・キャリア

人間の生涯発達や組織行動、行動経済学をはじめとする領域の専門的知識を学修します。高度な統計手法や行動観察法を用いて、質的、量的なデータを扱った研究ができる学生を育成します。

### 実践

アクティブラーニングを主体として、課題を発見し解決する力、グループワーク、プレゼンテーションなどのスキルを学修します。総合心理学を実践的に生かすことができる学生を育成します。

### 社会・文化

コミュニティワーク、多文化コミュニケーション、法と倫理などの領域の専門的知識を学修します。フィールドワークや行動観察法、会話の分析などを用い、質的、量的なデータを扱った研究ができる学生を育成します。

### 特殊講義

国際的な心理学の実践や研究の中で使える英語運用能力の学修に加え、最先端の心理学に関するトピックスについて学修します。激しく変動するグローバル社会の中で活躍できる学生を育成します。

回生	心理学を知る 1回生	基礎と応用を学ぶ 2回生	知識と実践を深める 3回生	研究をまとめる 4回生
学びの流れ	人間を総合的に理解するための基礎的な素養を修得します。人間理解や自己理解、対人関係の基本、多様な心理学の基礎知識を学びます。	応用的な学びに臨む素地を形成します。また、心理学における実験の手法と基礎的概念などを学ぶほか、広い人間理解を基盤にした専門的な知識と技術を体系的に学修します。	心理学の専門科目や隣接する領域の学びを深め、専門的な学力とともに、コミュニケーション能力を養い、幅広い応用力を身に付けます。	4年間の学びの集大成として「卒業研究」を実施。論文作成の過程や成果を発表する機会を通して、自身の考えをまとめ、情報を発信する実践的な技術を身に付けます。
基礎科目	外国語科目 英語S1 英語P1 英語S2	英語P2 英語S3 英語P3 英語S4	英語P4	
総合心理学基礎科目	リテラシー入門 総合心理学入門 心理学概論 Global Psychology	心理学史 認知心理学概論 (知覚・認知心理学) 発達心理学概論 (発達心理学) 社会心理学概論 (社会・集団・家族心理学) 社会の中の心理学 Introduction to Psychology	臨床心理学概論 医学総論 (人体の構造と機能及び疾病)	
認知・行動		思考心理学 神経・生理心理学 行動分析学 (学習・言語心理学) 心理的アセスメント Topics in Prevention and Crisis Intervention	認知科学 応用認知心理学 知覚心理学 応用行動分析学 (学習・言語心理学) 言語と心理学 精神疾患とその治療	障害者・障害児心理学
発達・キャリア	公認心理師の職責	乳幼児心理学 児童・青年心理学 経済と人間 産業・組織心理学	教育・学校心理学 中高年心理学 心理学的支援法 組織と人間 福祉心理学 行動経済論 心理療法各論I 心理療法各論II	キャリア形成論 Critical Issues in Psychology
社会・文化		司法・犯罪心理学 コミュニティ心理学 文化心理学 表現と心理学	家族と人間 政治と人間 メディア心理学 Diversity and Culture in Psychology	現代人間論 関係行政論 感情・人格心理学 健康・医療心理学 ジェンダー心理学 人間観の探求
ヒューマンデータサイエンス	心理学統計法I 心理学統計法II 心理学研究法 コンピュータ・リテラシー	質的研究法 量的研究法 プログラミング入門	心理学データ解析法 心理調査法概論	心理学統計法プラス 心理学データ解析実践
実践	基礎演習I プロジェクト研究I 国際フィールドスタディ	基礎演習II プロジェクト研究II 心理学実験演習I	プロジェクト研究III 国内フィールドスタディ 心理学実験演習II	展開演習 プロジェクト研究IV
特殊講義		総合心理学特殊講義I	総合心理学特殊講義II 総合心理学特殊講義III New Ideas in Psychological Science	専門英語(心理学)I Seminars on Selected Topics in Psychology
卒業研究				卒業研究(探究)I 卒業研究(探究)II 卒業研究(論文)I 卒業研究(論文)II

・上記のカリキュラムは予定であり、変更となる場合があります。  
 ・学部の特科科目とは質的に異なる、幅広い分野の知識の修得を目指す科目を多数履修することができます。 → 教養科目 [R102]

科目についての詳細は [オンラインシラバス](#) [立命館](#) [検索](#)

**外国語の選択** [必修] 英語  
 グローバル化が進んでいる心理学分野において、英語が国際レベルの研究活動、研究交流、研究の主要語であることから英語専修にしています。

## 学びの特色

### 実践的な学びを通じて、課題解決力を身に付ける

#### 〈実践知教育〉アクティブラーニングで実践知を養う

学生自らが課題を発見し、研究を通じてその解決に取り組み、論文作成や発表・議論へとつなげるプロジェクト型の学びを実施します。体系的なデータサイエンスの修得や、充実した環境を活用した研究の実践に加え、地域・企業・臨床現場と連携したフィールドワークを通じて、研究と現場を結びつける深い理解を伴う実践知を養います。



#### 〈国際的な心理学教育〉英語運用能力を高めグローバルな視野を身に付ける

英語による専門科目を開講し、グローバルな心理学の知識に触れるとともに、国際交流を体験する機会を提供します。プロジェクト発信型英語プログラムでは、学生が興味を持つテーマについて、世界中から情報を収集し、リサーチやディスカッションを行った上で、その成果を英語で発信します。これらの国際的な心理学教育を通じて、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を磨き、グローバルな視野を養います。



#### 〈心理臨床実践教育〉実践・実習を通じて心理学のスペシャリストを目指す

臨床心理学の基礎知識を学ぶとともに、実習を通じて対人援助の実践方法を学びます。具体的には、対人援助の領域で活躍されている方々との対話を通じて、臨床実践のあり方を学び、適性を知るとともに、カウンセリング面接・グループ面接・認知行動療法・家族療法などのロールプレイで具体的な技法や知識を学びます。

#### 〈卒業研究〉体系的に学びを積み重ね、集大成として卒業研究に取り組む

学生は全員、自身の設定した研究テーマについて、担当教員の指導のもと論文型または探究型の卒業研究に取り組みます。卒業研究を通じて、知識・情報処理能力・論理的思考力・判断力・表現力を鍛え、それらを総合的に使うことができる能力を養います。

#### [2025年度卒業論文テーマ一覧（総合心理学部一部抜粋）]

- 音楽聴取の与える心理的影響—被災地における心理的支援の検討—
- 子ども食堂におけるスタッフと参加者の関係性—スタッフの視点から相互主体性と手がかりに着目して—
- 自伝的記憶の内容が自己肯定感へ与える影響—インタビュー法を用いて—
- 自動運転車両における事故時の量刑判断と原因帰属—運転者の注意状態と自動運転レベルが与える影響—
- 女性起業家リーダーシップの構造—日本と米国在住の起業家の質的分析によるモデル化—
- 食行動異常がメディアリテラシーに与える影響—ボディイメージを媒介して—
- 正直な顔は魅力的か—逆相関法を用いた“good is beautiful”ステレオタイプの検討—
- 足浴・温泉VR動画視聴とリラクゼーションの関連性：心拍変動と気分変化に着目して
- 大学生が認知する親の養育スタイルと自己制御能力の関連
- 日韓における若年層の献血行動とその文化的背景—TEMによる献血プロセスの比較検討—
- 認知的方略と誇大広告への反応との関連
- 不妊治療に取り組む女性の支援ニーズと心理専門職に求められる役割に関する質的検討—治療開始時から育児期に至るまでの経験の語りから—

#### [2026年度 教員・研究テーマ一覧]

岩壁 茂	心理療法のプロセスと効果の研究、心理療法の統合、感情、臨床家の訓練と職業的成長、心理療法と文化・社会
宇都宮 博	青年期から成人期にかけての人格発達と家族・社会関係
大石 衛	言語を理解している間の脳活動についての研究
岡本 直子	音楽の効用を心理的介入に最大限に活かすための日米共同研究、芸術療法、TFT（思考療法）の実践および研究
神島 裕子	英米系の倫理学・政治哲学、正義論、ケアバリエティ・アプローチ
川野 健治	コミュニティづくり、予防・促進プログラムの開発と評価
北岡 明佳	鏡視とどまし絵の実験心理学的研究
吉 汎洪	表現療法、こころのケアと文化、スクールカウンセリング
サトウ タツヤ	文化心理学、ものづくり質的研究、心理学史、復興/まちづくり心理学、メタバース不登校支援、宇宙心理学
佐藤 洋輔	LGBTQ+のウェルビーイング、偏見と差別、ポジティブ心理学に基づく予防的アプローチ
澤野 美智子	医療と家族に関する文化人類学
首藤 祐介	こころの健康増進、依存症への支援、精神障害を持つ人への認知行動療法/臨床行動分析に基づく支援
鈴木 肇子	多様性、メンタルヘルスとウェルビーイング、予防的支援、世界のメンタルヘルス
諏訪 絵里子	愛着、発達障害のアセスメントと支援、異文化の理解、合理的配慮
高橋 康介	知覚、認識、行動、感性、およびその多様性に関する認知心理学研究
土田 宣明	実行機能とその加齢変化に関する実験的研究
賣 雪	メディア心理学およびオンラインメディアの効果研究とその応用
永井 聖剛	社会的コミュニケーションと認知、動作および身体と認知、動的シーンの知覚

中廣 直樹	行動分析学に基づいた障害のある個人のQOL向上のための援助
中田 友貴	社会における心理学の研究評価と影響、AIを用いた質的研究の実施・分析手法の有効性の検討
野田 実希	ナラティブ・語り研究、職業人のメンタルヘルス、病いを抱える方への心理的支援、質的研究方法論
服部 雅史	推論・意思決定・問題解決・創造性・合理性の認知心理学
林 勇吾	高次認知（言語・記憶・学習・問題解決・創造性）やコミュニケーション（協同問題解決、集団意思決定）に関する実験心理学研究、AI・VRを用いた学習支援や認知モデリング、ヒューマンインタフェースに関する認知科学研究
増田 梨花	学校現場におけるピア・サポート、絵本と音楽を活用した臨床心理学的介入法
三田村 仰	カップセラピー、親への移行期の夫婦支援、認知行動療法の文脈的アプローチ
宮口 幸治	発達障害・知的障害への包括的支援、非行臨床、精神医学など
村本 邦子	DV・虐待・性暴力など女性支援、災害・戦争など歴史のトラウマ、土地と文化に根差した土着心理学
村山 綾	対人過程、集団内過程、集団間過程に関する社会心理学的研究
森 知晴	行動経済学の応用（労働・教育・税金・保険・ギャンブル）
安田 裕子	生涯から始まるlifeサイクルにおける危機と回復のナラティブ研究、質的研究法TEA、豊かなライフ・キャリアの研究、司法面接における心理臨床的役割
矢藤 優子	乳幼児と養育者の行動発達研究、科学的根拠に基づく育児支援システム構築のための縦断調査と東アジア諸国間の比較研究
山岡 あゆみ	マイノリティに対する偏見・スティグマ、キャリア形成、いじめ
山本 博樹	意味理解を支援する説明的教育心理学
若林 聖輔	社会を規定する法の人間的問題に対して心理学的にアプローチする研究

詳しくはこちら ▶



### 全国有数の規模を持つ実験・実習施設とアクティブラーニングを支える学習空間



#### ■ 動物行動実験室

ハトを使った動物心理学の研究を通じ、人間と人間以外の動物の心の共通性などを探ります。



#### ■ 脳機能画像分析装置

近赤外分光法を用いて脳活動を調べる装置です。fMRIよりも自由度の高い実験が可能です。



#### ■ NAO（人型ロボット）

人間の知的な振る舞いをプログラミングすることで、人間の心の動きについて理解を深めます。



#### ■ 面接実習室

カウンセリングの実習やインタビュー調査、また箱庭セットによる心理療法の実習などを行います。



#### ■ プレイルーム

おもちゃや砂場を配備し、主に子どもの心や行動を調べるための実験や観察を行います。



#### ■ 生活行動実験室

キッチンや応接セットなどを配備し、日常生活における行動の特性や援助が必要な場面を探ります。

### [大学院進学 一人間科学研究科]

#### 社会の中に生きる心理学・人間科学の創造を通して、学術と社会の発展に貢献する人材を育成。

人間科学研究科は、基礎心理学から臨床心理、対人援助（福祉・教育・カウンセリングなど）まで幅広い研究領域を網羅する大学院として2018年に設置されました。全国唯一の院生数と教員数を誇り、学術と実務の垣根を越えた、産学協同による研究と実践でさまざまな学びをサポートします。心の内だけでなく、人間を総合的に知るために分野を越えて学び、専門性をさらに深め、総合心理学部での学びをさらに発展させ追求していく環境が整っています。

#### 特色ある多様な研究領域

人間科学に関する多様な研究により、院生が自らの学問的関心を中心に捉えて、さらに周辺領域へ融合・発展させることができるカリキュラムや研究機会を用意しています。

#### 社会人院生在籍によるアカデミックとプロフェッショナルの融合

博士前期課程、後期課程共に社会人院生が在籍し、実務からの課題解決研究とアカデミックな視点からの研究が並存し、学術界と実社会の融合を起こします。

#### 国家資格「公認心理師」の認定プログラムに対応

医療保健領域から教育、福祉、産業、司法、被災者支援、社会福祉と幅広い領域における課題に対応する公認心理師。人間科学研究科では認定プログラムに対応するとともに、アカデミックな角度からのアプローチも行います。

#### 【公認心理師に求められるもの】

—公認心理師には、知識以外に技能・態度の修得が求められています—

▶心理査定、心理面接、地域援助、教育研究という従来の職務に加えて、状況を適切に把握し、事実を的確にアセスメントし即応した支援を行うことができる技能・態度

▶多次元にわたり、交錯する要因が関わる困難な問題の増加—多職種との共同体制

▶良いチームワークとネットワークの軽いアウトリーチ

※公認心理師試験受験資格取得は、大学・大学院において省令で定める科目を履修し、卒業・修了する必要があります。

#### 【修了後の進路】

現代・未来を見据えながら、社会から求められる各領域のスペシャリストを養成し、分野を問わず、さまざまな場面での活躍が期待されます。

進路例		
●臨床心理士	●産業カウンセラー	●スクールカウンセラー
●警察官	●司法	●福祉
●教育	●医療	●高齢者介護
●障害者援助	●看護師	●保健師 など



[大阪いばらきキャンパス]

# グローバル教養学部



■ グローバル教養学科 英語・4月 英語・9月

RU-ANU 専攻\*

\*グローバル教養学部では、入学時は全員RU-ANU 専攻の学修を行います。入学後、オーストラリア国立大学 (ANU) の入学審査結果などにより、RU 専攻へ転じることがあります。

## 英語を話すその先へ、リベラル・アーツを身に付けてグローバルに活躍する

皆さんは、GLA (グローバル教養学部: College of Global Liberal Arts) と聞いて、どんな学部を想像するでしょうか。本学部の最大の特長は、名門オーストラリア国立大学とのデュアル・ディグリー・プログラムにあります。オーストラリアでの1年間の留学では、世界中から集う優秀な学生と共に、アジア太平洋の国際関係学を専門的に学びます。今日の国際政治と世界経済を分析するための一流の知識、留学で得られるリアルな異文化体験、そしてそこで育む世界につながる豊かな人脈は、そのまま卒業後のキャリア形成に大きなアドバンテージを与えるでしょう。

それだけではありません。GLAの魅力と強みは、日本で学ぶ3年間にこそあります。皆さんはここで、文理にまたがる幅広い知識を実際の社会の発展に役立てていく具体的な方法論 = リベラル・アーツを、ディスカッション・ベースの実践的な方法で徹底的に鍛えていきます。リベラル・アーツとはもとより、既存の社会構造や古い考えから人々を「解放 Liberate」し、より良い社会と未来を創造する知の「技法 Arts」のことなのです。

世界は今、そうしたリベラル・アーツを身に付け、グローバルに活躍する社会のリーダーを求めています。英語を話すその先へ、GLAは、皆さんのグローバル・キャリアを全力で応援します。

## 4年間の学び

### 4年間の学びの特長

#### ■ オーストラリア国立大学 (ANU) とのデュアル・ディグリー・プログラム (DDP)

立命館大学 (RU) は ANU の College of Asia and the Pacific と提携し、全て英語による4年間の授業を通じて両大学の所定の条件を満たし単位を取得すると、卒業時に RU の学士 (グローバル教養学) と ANU の学士 (アジア太平洋学) の2学位を取得できるプログラムを提供しています。4月入学の場合は2回生の秋学期から3回生の春学期まで、9月入学の場合は3回生で ANU に留学予定ですが、留学前後のセメスターでは、大阪いばらきキャンパス (OIC) で RU と ANU の授業を同時に受講します。

#### ■ 知識を生かすための知の技法を学ぶ、世界に通ずるリベラル・アーツの学び

RU のカリキュラムでは、「リベラル・アーツ」の名のとおり、文理にまたがるさまざまな学問の基礎が体系的に学べます。哲学や歴史学、政治学、経済学、社会学、カルチュラル・スタディーズ、国際関係論、データサイエンス・AI、経営学、デザイン学、心理学、持続可能エネルギー研究などの学びを通じて、知識を社会発展や問題解決に活用するための力を徹底的に鍛えます。

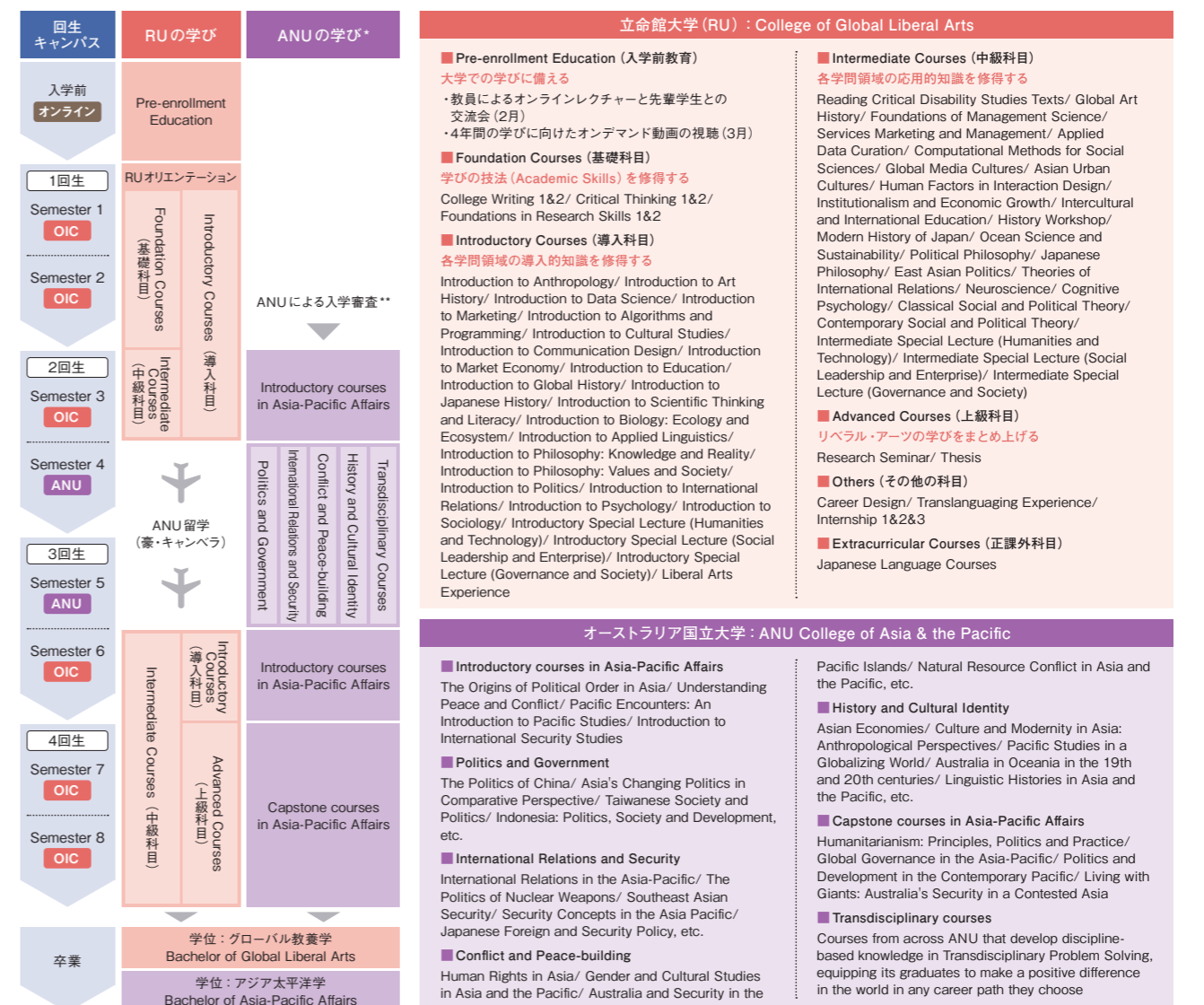
#### ■ ANU College of Asia and the Pacific によるアジア太平洋地域の専門的な学び

ANU のカリキュラムでは、College of Asia and the Pacific の Coral Bell School of Asia Pacific Affairs (通称: Bell School) が提供するアジア太平洋地域に関する科目分野を履修します。Bell School は、卓越した研究力と教育力で、世界やアジア太平洋地域の政治学、安全保障、外交、戦略立案に関する研究、教育、政策分析で世界をリードしています。

## グローバル教養学部の学びの流れ [4月入学の場合の例]

ANU TEQSA Provider ID: PRV12002 (Australian University) | ANU CRICOS Provider Code: 00120C

\*詳細は ANU ウェブサイトでご確認ください。



\*\*ANU の科目を履修するためには、ANU による入学審査 (英語要件および成績要件審査) に合格する必要があります。詳細はグローバル教養学部ウェブサイトでご確認ください。

## 4年間の学び

### デュアル・ディグリー・プログラム体験記

幅広い分野を理解する力と専門性を深める力、独自の問いを生み出す力が養われている。



LE Ha Phuong さん

グローバル教養学部 グローバル教養学科 3回生  
ベトナム・Hanoi-Amsterdam High School for the Gifted 出身

好きな分野をどれも諦めることなく、学際的に学べるところに魅力を感じ、GLAを志望しました。RUでは、哲学や現代社会・政治理論、近現代美術史など、多様な科目を学んでいます。ディスカッションの機会も多く、クラスメイトや尊敬する教授と対等な立場で意見を交わす中で、自分の意見をはっきり言えるようになっただけでなく、自ら出した答えを客観的に評価し、より深く思考できるようになりました。また、ANUの授業では、アジア太平洋地域の政治・国際関係について、さらに専門的に学ぶことができます。DDPでの学びを通じて、幅広い分野を理解する力と専門分野を深く掘り下げる力、その上で独自の問いを生み出す力が育まれていると感じています。

国際関係は「違い」の上に成り立っている。両国での学びを通じて実感。



マイネハン ブランドン 真 さん

グローバル教養学部 グローバル教養学科 4回生  
愛知県・名古屋国際高校出身

ANUでは、“Asia's changing politics in Comparative perspective”や“Security Concepts in the Asia-Pacific”などを受講し、アジア太平洋の国際情勢や安全保障、外交、歴史について学びました。各国の立場や背景の違いを認識して分析する経験を通じて、国際関係は、国ごとの違いの上に成り立っていることを、知識としてだけでなく、実感として理解できたと感じています。一方RUでは、幅広い分野の授業を横断的に受ける中で、知識同士の「つながり」を意識して学ぶことができました。その結果、アジア太平洋全体に対する理解がより深まりました。異なる二つの国での学びを通じて、将来は、国際協力や外交の分野に進みたいという気持ちが強くなりました。

### [2026年度 教員・研究テーマ一覧]

教員名	研究分野名
石原 悠子	哲学、日本哲学・現象学
糸井 貴夕	応用言語学、高等教育の国際化、言語教育
CHUNG-MOYA Emily	消費者行動研究、マーケティング、ブランディング
小木曾 左枝子	外国語・第二言語教育、日本語教育
OZTURK Ugur Aytun	経営科学、経営工学、オペレーションズ・リサーチ
北野 知佳	社会言語学、ジェンダー研究、アイデンティティ研究
志村 真弓	国際関係論・国際政治学、平和研究
塚田 英恵	教育学、社会公正教育、国際教育交流、多文化共生
JOHNSON Christopher	哲学、政治哲学・公共哲学
CAPKOVA Helena	芸術学、美術史
THOUNY Christophe	比較文学、日本視覚文化、都市学

詳しくはこちら ▶



教員名	研究分野名
BATOOL Saeeda	開発経済、男女格差
廣野 美和	現代中国論、国際関係論
藤田 加代子	日本史、グローバル・ヒストリー
HAIMES Paul	美学、インタラクティブアート
堀江 未来	教育学、異文化間教育、教育政策行政論
MARQUEZ Gian Powell	海洋科学、再生可能エネルギー研究
MARUTSCHKE Moritz	データサイエンス、教育学、人工知能を活用した学際的研究
森井 一真	イギリス帝国史、奴隷貿易・奴隷制廃止の歴史、イギリス議会議史
山岸 典子	認知心理学、脳科学
山下 恵理	障害学、フィリピン地域研究
RASIT Huseyin	政治社会学、社会理論

## キャンパスライフ(寮生活)

### OIC グローバルハウス

OIC グローバルハウスは、大阪いばらきキャンパス (OIC) 内に2019年に竣工した小林記念館の中にある国際寮です。グローバル教養学部の学生が中心となって入寮し、「キャンパスの中で、共に学び、共に暮らす」生活を送っています。個室タイプの寮室を200室用意するとともに、茶室・日本庭園・能舞台を備えた多目的ホールなど、日本文化が感じられる多様な国際交流の場を設けています。



### 寮生の声

多国籍の寮生と交流ができ、学業にも集中できる恵まれた環境です。

授業がすべて英語で行われ、幅広い分野の科目を通じて、国際的な視野を養えるところに魅力を感じ、GLAを志望しました。1回生では、基礎科目や語学の他に、Philosophy (哲学) やBiology (生物学)、Physics (物理) といった理工系科目、さらに人工知能に関する特別講義など幅広い分野を履修。特にPhilosophyの授業では、異なる多様な価値体系を学び、物事を多角的に捉える思考が身に付きました。

OIC グローバルハウスはキャンパス内にあって、通学時間を気にせず、学びや大学生活に時間とエネルギーを当てられるのが良いところです。学生の居室はすべて個室で、プライバシーを確保し、一人で静かに勉強に集中できる環境が整っています。一方、キッチンや勉強スペースなどの共用スペースもあり、自炊をしたり、寮に住むさまざまな国出身の留学生と交流する機会もたくさんあります。初めて親元を離れて寮に入り、自分で食事や生活のペースを整えたり、生活と学業のバランスを取るなかで、自己管理能力や自立心が向上したと感じています。

国際寮の恵まれた環境でしっかり勉強し、哲学や心理学について学びを深めたい。2回生後期からはオーストラリアに留学し、さらに多様な分野に学びを広げたいと考えています。



伊東 華琳 さん

グローバル教養学部 グローバル教養学科 2回生  
中国・Shanghai Ganquan Foreign Languages Middle School 出身

### ANU Accommodation

ANUのCollege of Asia and the Pacificの一部であるCoral Bell School of Asia Pacific Affairsの学舎は、オーストラリアの首都キャンベラにあり、公園のようなキャンパスの中にあります。また、ANUには食事付き・無しなどのさまざまなタイプの学生寮があり、留学時はその中の一つに入寮することになります。詳細は、ANUウェブサイト\*をご確認ください。



\*ANUウェブサイトはこちら ▶





[大阪いばらきキャンパス]

# 映像学部



## 映像学科

### あらゆる分野をつなぎ、社会に貢献する「映像」

「映像」という言葉に、皆さんは何を思い浮かべますか。ワクワクするような冒険が繰り広げられる映画やCGアニメーション、手に汗握るアクションゲームが身近な映像であると考えられる人もいないかもしれません。映像学部では、それだけではなく、映像を用いた社会課題の解決とその基盤となる多様な文化的価値の創造を目指しています。

映像関連のテクノロジーはめまぐるしく発展し、生活文化も著しく変化させています。いつもポケットやカバンに入っているスマートフォン、勉強や仕事で使うパソコン、街中や電車の中に設置されたモニター広告。もはや、わたしたちの生活は映像で溢れかえっています。

こうした背景を踏まえ、映像学部では、「映画芸術」「ゲーム・エンターテインメント」「クリエイティブ・テクノロジー」「映像マネジメント」「社会映像」といった5つの学びのゾーンを軸に、多様な映像分野を開拓し、映像を通じて広く人類と社会に貢献していく人間を育成していきます。

大阪・京都を軸とした関西圏の映像文化の発展に貢献するとともに、映像制作・研究を通じて、社会の変化を先取りする、創造性豊かなクリエイター、イノベーターを育成します。

## 学びの特長

「5つの学びのゾーン」を理解すると、映像学部がもっと見えてくる。

### ■「5つの学びのゾーン」の特長

#### 映画芸術ゾーン

映画の表現技法およびその関連領域の技能と知識を修得します。具体的には、シナリオ、演出、撮影、編集、録音、制作など、実写映画の制作工程において必要とされる技術、CGアニメーションの創作技術、映画の理論や歴史を学び、映画芸術の創造と理解を目指します。



#### ゲーム・エンターテインメントゾーン

従来型のエンターテインメント作品から、産業では挑戦し得ない芸術的・実験的作品までを範囲とし、「遊び」を誘導するための知識と技法を学修していくゾーン。遊戯の理論と歴史、難易度工学、世界観設計、シナリオ(ナラティブ)、グラフィックデザイン、プログラミング、ソーシャルメディア構築、ハードウェアの実装を学ぶことができます。



#### クリエイティブ・テクノロジーゾーン

メディア表現に関わる理論を活用し、メディアアートやバーチャルリアリティなどのテクノロジーに裏打ちされた新しいクリエイティブなメディア表現を創造することを目的とします。学生はクリエイティブなメディア表現の知識やプログラミング技術、映像分析方法などを学び、リサーチとクリエイションを結びつけていくことを目指します。



#### 映像マネジメントゾーン

クリエイティブ経済のダイナミズムを理解し、国や自治体の文化政策を学びます。さらに、グローバルな視点とローカルな視点の両方から、映像を「文化資源」として新たに捉え直す理論と実践を深く学びます。



#### 社会映像ゾーン

映像を通してヒト・モノ・コトを発見し、研究し、社会と関わることを目指すゾーンです。フィールドワークを通じて記録映像などの制作や映像アーカイブの実践に関する技能と知識について学修します。ドキュメンタリー、映像人類学、メディア社会学、デジタルアーカイブなどを学ぶことができます。



#### きめ細やかな学びのガイド

映像学部では、多様な映像分野を横断しながら学生それぞれの課題意識に応じて自らの学修を円滑にすすめていくことができるよう、振り返りと目標設定を行う演習科目を設置しています。

1回生	学びの基盤を形成 「映像基礎演習」
2回生	5つのゾーンへの展開 「映像学入門演習」
3回生	基礎を応用する学びへ 「映像文化演習I・II(ゼミナール)」
4回生	4年間の学びの集大成 「映像文化演習III・IV(ゼミナール)」 「卒業研究」

### ■「5つの学びのゾーン」をまたぐ豊富なキャリア形成科目

#### 学外映像研修

映像関連会社、映像制作会社、ゲーム関連会社など、多様な企業・団体の現場で業務の一端を体験する授業です。



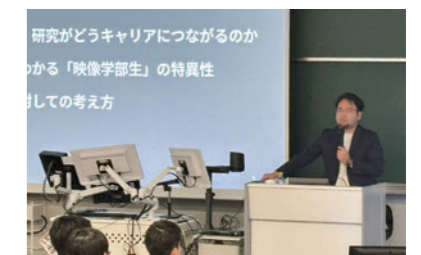
#### 特殊講義「びわ湖ホール連携講座」

びわ湖ホール内の劇場や舞台裏の見学、プロスタッフによる体験講習を経て、自ら企画した舞台映像美術を制作します。



#### クリエイティブリーダーシップセミナー

映像関連分野のクリエイター、プロデューサー、経営者などによる講演、キャリア・マネジメント関連講義で構成する授業です。



# 学び・プログラム

## 映像学部における5つのゾーンの学びの事例

映像学部では、「映像学入門演習」(2回生)、「映像文化演習(ゼミナール)」(3回生) (4回生)、「卒業研究」(4回生)などの演習科目を5つのゾーンに設置しており、映像に関わる知識と技術を高めます。以下は学びの具体的な事例です。

<p><b>映画芸術</b></p> <p>「青を這う星」 大西 未宮さん、葉山 いろはさん</p> <p>高校時代に映画制作を誓い合った智希、紘、唯の三人。しかし紘の突然の失踪により、智希の夢は止まってしまう。「見えていないけれど確かにある想い」が交錯する、再会・葛藤・そして再生を静かに描く、等身大の青春物語。</p> 	<p><b>CG実習I</b> 静止画課題「餃子パーティー」 小林 友香さん</p> <p>2人でささやかなホームパーティーを開いている様子をイメージし、夕飯を食べる直前の団楽のひとつを制作した。夕方の光の温かさを感じられるライティングを目指して光の強さや色を調整した。</p> 
<p><b>エンターテインメント</b></p> <p>サンマシンの脱出 三治 佑太さん</p> <p>ゲーム制作実習Iで制作されたアドベンチャーゲーム。とらわれたサンマが、「サンマシオン」となって囚われた場所からの脱出を試みるという物語。HTML5、JavaScriptによって実装されており、Webブラウザ上でプレイできる。</p> 	<p><b>日本語と韓国語でGO!</b> KIM Yejiさん</p> <p>日本語と韓国語における発音の類似性に着目し、楽しみながら語学学習ができるゲームを制作した。チャット形式で対話的にストーリーが展開し、物語の中で提示される重要なキーワードが韓国語で表現され、プレイヤーはそれを文脈や発音から推測して正解を導く。</p> 
<p><b>クリエイティブ・テクノロジー</b></p> <p>ハイ!チーズ! 東 玲那さん</p> <p>カメラの前でのアクションに反応するインタラクティブ作品。手を振ると花が舞い、デジタル眼鏡が装着されるなどの演出と共に体験時の瞬間を写真に残せる仕組みを構築した。体験者の笑顔を引き出すべく、AIとの共創プロセスを取り入れながら、遊び心あふれる撮影体験を具現化している。</p> 	<p><b>感情の視覚化による記述手法の研究</b> 森 彩夏さん</p> <p>本研究では、ビジュアル表現と感情心理学を統合することで感情そのものを抽象的に記録する新しい日記表現を提案した。心の動きを夜空の星座として可視化するデジタル作品「Diary」は、喜びも悲しみも美しく美しい存在として受け止める視点を提示する。</p> 
<p><b>映像マネジメント</b></p> <p>社会連携プログラム (BitSummit)</p> <p>社会連携プログラム (BitSummit) では、京都で毎年開催されている日本最大級のインディーゲームの大規模イベントの運営に参加。受講生は運営担当者と会議を重ねながら、イベントの一部の企画の宣伝・運営を自ら行った。</p> 	<p><b>映像の記憶想起効果に関する産学協同研究</b> 上山 千夏さん、長谷川 涼香さん</p> <p>映像CM制作企業と協働して、「実写」・「アニメ」・「声に特徴のある映像」のそれぞれが映像の記憶想起においてどのような特性を持っているかをテーマとした研究を実施。</p> 
<p><b>社会映像</b></p> <p>アニメーターにおける労働の意味 - 労働意識と現実生活をめぐって - 山本 ひよりさん</p> <p>アニメーターの仕事を対象に映像記録と分析を行い、仕事の意味と労働環境を個人・社会の両面から立体的に明らかにすることで、アニメーション業界の現状と課題への向き合い方を考察する映像人類学の研究。</p> 	<p><b>「漂着ごみの価値を見直すためのアーカイブ - 漂着ごみの再利用活動を通じて -」</b> 門田 彩佳さん</p> <p>「漂着ごみ」が今、社会問題となっている。しかし、流れ着く漂流物は本当に価値のないゴミなのか。漂着ごみに新たな価値を付加する活動を通じて、視聴者の価値観を問い直そうとする映像アーカイブである。</p> 

### ■「JUNCAREE」

(EIZO JUNCTION × キャリアフェア)



「JUNCAREE」は、映像学部生・研究科生の作品制作・研究の成果を学内外の方々に向けて発表する場です。企業関係者や現場で活躍されているクリエイターの方々をお招きし、学部生・院生との交流をととして、作品制作・研究活動への意欲やキャリア意識の向上を促す、映像学部・研究科ならではの一大イベントです。2025年度は10月に大阪いばらきキャンパスで開催しました。

### ■立命館映像展

(立命館大学映像学部卒業・大学院映像研究科修了合同展示・上映会)



「立命館映像展」は、映像学部生・研究科生の卒業研究・修士研究の成果を、上映、展示、ポスター発表という形で社会に発信する最大の機会です。学内外の方々に、これらの成果を直接見て・触れて・体験していただける場でもあります。例年、2月に開催しています。

# 4年間の学び

1回生	2回生	3回生	4回生
<p><b>学びの流れ</b></p> <p>読解力や表現力、マネジメント力を少人数授業で修得し、映像に関する知識を広げます。また映像制作の手法を実践的に身に付ける実習授業や、プロデュース能力を磨く講義も履修できます。</p>	<p>映像の理論や歴史、マーケティングなど専門領域を学ぶ授業が本格的に始まります。自身で選択したゾーン別の演習クラスに所属するとともに、映像に関するプロフェッショナルを招く特別講義を通して、キャリア形成の意識を高めます。</p>	<p>基礎を応用する学びへとステップアップします。ゼミナール(映像文化演習)で、高度な映像制作や歴史的、芸術的、社会的、国際的な諸問題に関する理論的、実践的な研究が始まります。さらに提携企業でのインターンシップを通して、実践力と職業観を養います。</p>	<p>映像文化演習を通じて、キャリアを意識した自身の研究を深め、4年間のトータルな学びを大成する「卒業研究」に取り組みます。</p>
<p><b>映画芸術</b></p> <p>シナリオ基礎 CG概論 映画研究 映像制作実習Ⅱ 世界映画史Ⅰ・Ⅱ</p>	<p>物語理論 アニメーション映画史 映像制作実習Ⅲ 映画上映実習 CG実習Ⅰ・Ⅱ 映像演出実習 映像撮影照明実習 映像編集実習</p>	<p>映像音響実習 広告映像実習 CG実習Ⅲ</p>	
<p><b>エンターテインメント</b></p> <p>ゲーム・クリエイティブ・テクノロジー</p> <p>ゲーム制作実習Ⅰ ゲーム制作実習Ⅱ ゲームデザイン論</p>	<p>映像学基礎 メディアアート クリエイティブ数学 映像と心理 プログラミング演習Ⅱ</p>	<p>インタラクティブ空間デザイン演習 ゲームクラフト実習 3Dインフォグラフィックス実習</p>	
<p><b>映像マネジメント</b></p> <p>映像制作実習Ⅰ クリエイティブビジネス概論</p>	<p>映像学入門演習 学外映像研修 社会連携プログラム クリエイティブリーダーシップセミナー</p>	<p>映像作品研究 ヒューマンインタフェース 映像論文執筆Ⅰ・Ⅱ</p>	<p>卒業研究 映像文化演習Ⅲ・Ⅳ</p>
<p><b>社会映像</b></p> <p>社会連携プログラム 映像デザイン演習 フィールドワーク演習</p>	<p>プロジェクトマネジメント概論 知的財産論 映像産業論</p>	<p>グローバルトランスメディアマネジメント クリエイティブファイナンス 映像文化資源マネジメントアドバンス 映像文化資源アーカイブ文献講読</p>	
<p><b>外国語</b></p> <p>Oral CommunicationⅠ・Ⅱ Basic EnglishⅠ・Ⅱ</p>	<p>DiscussionⅠ・Ⅱ Media EnglishⅠ・Ⅱ Reading SkillsⅠ・Ⅱ</p>	<p>放送メディア論 グローバル映像社会論</p>	

- ・上記は2026年度のカリキュラムです。 ・上記の科目は、各ゾーンの代表的な科目を掲載しています。
- ・網かけなしは「理論」系、色付きは「実践」系の科目です。 ・は小集団で行う科目です。映像学部では、4年間を通してきめ細かな小集団教育を行います。
- ・ゲーム・エンターテインメントゾーンと映像マネジメントゾーンのゼミを含む主要な科目は、衣笠キャンパス(京都市北区)と立命館松竹スタジオ(京都市右京区)で開講します。
- ・学部の専門科目とは質的に異なる、幅広い分野の知識の修得を目指す科目を多数履修することができます。 → 授業科目 [P.102]

科目についての詳細は  
[オンラインシラバス](#) [立命館](#) [検索](#)

## 外国語の選択 [必修] 英語

### [2026年度 教員・研究テーマ一覧]

天野 圭二	ポップカルチャー論、コンテンツ産業史、企業の社会的貢献	斎藤 進也	人文社会情報学、インフォグラフィックス、ゲーム制作	松陰 信彦	映画サウンドデザイン
飯田 和敏	アート(ゲームグラフィックス)、ゲーム制作	斎藤 大幹	メディア表現、コミュニケーションデザイン	松本 ヨシユキ	映画撮影
板垣 静香	PBLに基づく英語学習、英語教育におけるユニバーサルデザイン、バイリンガリズム	鈴木 岳海	映像人類学、記録映像制作	望月 茂徳	インタラクティブメディア
井上 明人	ゲームの現象論、ゲームの社会応用	宋 基燦	映像人類学、マイノリティ研究	毛利 仁美	図書館情報学、博物館学、文化資源アーカイブ
上田 学	映像学、メディア考古学	武田 港	ゲームデザイン、インタラクティブ・デザイン、漫画シナリオ	山口 記弘	映画産業論・京都文化論、キャラクター産業論
大島 登志一	人工現実感(バーチャルリアリティ)、複合現実感(ミクスリアリティ)	竹村 朋子	メディア利用行動	山崎 由佳	CGアニメーション
尾鼻 崇	ゲーム音響研究、ゲーム資料の保存と利活用、博物館情報学	谷 慶子	映画シナリオ	山本 浩史	映画編集
小川 明子	メディア論 コミュニティ・メディア研究	辻野 理花	デジタルメディアコミュニケーション 多文化共生論	渡辺 修司	ゲームデザイン、ゲームフィクション、ゲーム制作 客員教授
奥出 成希	ゲームプログラミング	永田 彰子	メディア論、メディア文化研究	熊切 和嘉	映画監督
亀井 伸幸	映画、広告映像:監督、企画演出、脚本	中村 彰憲	国際経営、クリエイティブ産業論、ブランド戦略論	鳥嶋 和彦	編集者
川口 修衛	映像撮影技術	福田 一史	図書館情報学、人文情報学	浜村 弘一	株式会社KADOKAWA デジタルエンターテインメント担当シニアアドバイザー
北浦 寛之	映画学 メディア研究	藤岡 幹朗	映画演出	松岡 錠司	映画監督
北野 圭介	映像理論、表現文化論	古川 耕平	CG、デジタルアーカイブ	三島 有紀子	映画監督、映像作家、脚本家
北原 聡	CGアニメーション	朴 真理子	応用言語学、英語教育学、語用論、異文化間コミュニケーション	源 孝志	映画監督、演出家、脚本家
北村 順生	メディア社会学	LYONS Michael	オーディオビジュアルバーセプションと表現、マルチメディアリティ、京都メディアアート	AKIHITO	Special Effects Make-up Artist

詳しくはこちら ▶



[大阪いばらきキャンパス]

# 情報理工学部



## 情報理工学科

システムアーキテクトコース/セキュリティ・ネットワークコース/社会システムデザインコース/実世界情報コース  
メディア情報コース/知能情報コース/Information Systems Science and Engineering Course **英語・4月**

## 目指すのは、新たな未来の創造

### 「情報」の力で社会をより便利に、より楽しく、より安全に

情報理工学部は、情報通信技術 (ICT) に関わる広範な領域を網羅する情報系学部として、2004年4月にびわこ・くさつキャンパス (BKC) に設置され、最先端のICTを学べる学部として国内外から注目を集めています。また、2017年4月より1学科7コース体制に改組し、入学後の1年生春学期終了時に、秋学期から所属するコースを選択する制度も導入しました<sup>\*1</sup>。授業を英語で行う科目のみで学位取得に必要な単位を取得できるISSE (Information Systems Science and Engineering) コースも開設しており、世界で活躍できる国際性を備えた次代を担う技術者・研究者を育てています。

そして、2024年4月より大阪いばらきキャンパス (OIC) へ移転し、各コースにおける高い専門性を軸として幅広い情報技術分野における知識の修得を目指した「ユニット」を導入しました<sup>\*2</sup>。有益な知見をデータから引き出すデータサイエンス、コンピュータが自ら判断を行うAI、ビジネスや組織の活動・内容・仕組みをデジタル技術により再構築するDX、さまざまな機器をインターネットに接続するためのIoT等、新たな未来社会に必要な不可欠な知識を習得し、さまざまな専門分野に挑戦することで、世界にインパクトを与える研究に取り組みます。

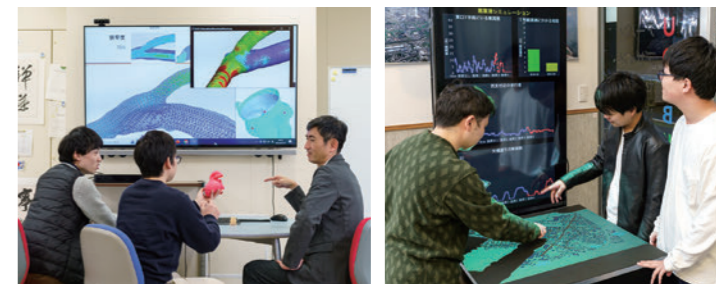
<sup>\*1</sup> ISSEコースのみ入学時にコースを決定します。  
<sup>\*2</sup> ISSEコースでは2028年度以降にユニットを導入予定です。

**英語・4月** 授業を英語で行う科目のみで学位取得に必要な単位を取得でき、4月入学ができる学科・専攻・コース

## 学びの特色

### 充実の大学院

情報理工学研究科は、情報理工学部の教育と研究の基盤の上に「ICTの最先端領域における教育と研究を展開」しています。情報処理、ネットワークおよびシステムの構築といった基盤技術、情報メディアや人、知能に及ぶ応用技術、情報技術の最先端領域に至る理論と技術・倫理に関する知識などに加え、創造的発見能力を兼ね備えた国際的に活躍できる研究者、高度専門職業人を養成しています。教員規模や研究実績は全国トップクラスを誇り、修了生の多くが国内外でグローバルICT人材として活躍しています。



### 国際性豊かな学び

ICTの分野で活躍するためには、専門性に加えて英語運用能力やグローバル感覚が不可欠です。情報理工学部では、独自でアメリカ、オーストラリア、インド、中国などの大学・研究機関と協定を結び、海外IT研修プログラムや海外インターンシップ・プログラムを実施しています<sup>\*</sup>。また、英語基準コースであるInformation Systems Science and Engineering Course (ISSE) や、中国の大連理工大学との共同学部では、アジアを中心にさまざまな国・地域から留学生を受け入れています。国際性豊かな学びを通じて世界に通用する技術者の育成に取り組んでいます。

<sup>\*</sup>プログラムの内容は年度によって変更・中止となる場合があります。



海外インターンシップ (インド) の様子



留学生受け入れの様子

### 多様な学びをサポートする学習施設・環境

リアルとバーチャルを融合した情報理工学部の新しい学びをサポートする環境として、「コネクティッドラーニングコモンズ (CLC)」を開設しています。CLCは、従来のリアルな学びをサポートするラーニングコモンズ機能を拡張し、メディアを活用した新しい授業などバーチャルな学びにも積極的に活用可能な次世代学習環境です。また、学生の学びや研究成果を広く発信・社会還元する目的で「SP LAB」も開設しています。このラボでは、学生の日々の発信をリアルとバーチャルの両面からサポートします。

<sup>\*</sup>画像はイメージで、実際とは異なる場合があります。  
<sup>\*</sup>「コネクティッドラーニングコモンズ」「SP LAB」は全学共用の施設です。



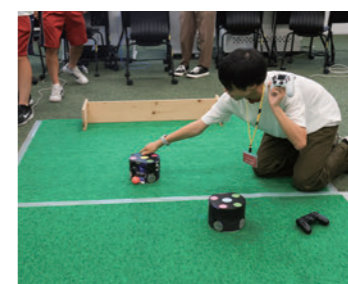
コネクティッドラーニングコモンズ



SP LAB

### 課外活動での学び

情報理工学部の公認課外活動団体「PJ (プロジェクト) 連合」は、Ri-one (人工知能開発)、RiG++ (ゲーム開発)、RiPro (競技プログラミング)、RiST (セキュリティ) などさまざまな分野で活動する4団体により構成されています。情報系の学生として日々新しい技術、知識に挑戦し、成長を目指します。Ri-oneでは、自律移動型ロボットの世界的な競技大会RoboCupにて上位入賞を果たすなどの華々しい活動成果もあげています。連合には、約300名の情報理工学部生が在籍し、常に活発な活動が行われています。



Ri-oneのAIサッカーロボット



RiG++が制作したレースゲーム

## 4年間の学び

- [特長1] 1回生では情報科学分野全般の基礎を学修し、春学期終了時に各自の興味や将来のビジョンを考慮してコースを選択します。
- [特長2] 1回生秋学期から配属されたコースで専門分野を学びます。
- [特長3] 3回生春学期に所属する研究室を決定し、秋学期から1年半をかけて卒業研究に取り組みます。
- [特長4] 各自の目的意識に合わせてユニットを選択し、コース横断的な学びを深めることもできます。

上記の学びを通じて、専門分野に関する深い知識や、自ら問題を発見し解決できる実力が身に付き、大学院へ進学した場合も、より深く高度なレベルからスタートすることが可能になります。

## 7つのコース

時代の要請に合わせた各専門領域を深く学ぶ日本語基準の6つのコースに加え、さまざまな分野の知識を横断的に活用してグローバルな環境で問題解決を実践する英語基準のコースを設置しています。情報分野を取り巻く新たな社会状況に対応できる人材の育成を目指します。

※カッコ内はコース名称の略称です。

### システムアーキテクトコース (SA)

今まで誰も作ったことのない情報システムを構築できる「建築家(アーキテクト)」を目指し、ハード、ソフトの基礎的な技術から、データサイエンス、IoTまで情報システム技術全般を学び、システム開発・運用のための実践的能力を獲得します。



### セキュリティ・ネットワークコース (SN)

現実世界と仮想世界が高度に融合する現代社会では、その礎となる情報インフラの重要性は日々高まっています。本コースでは、情報インフラを構成するセキュリティ、ソフトウェア、ネットワークの知識や、安心・安全な情報システムの構築技術が身に付きます。



### 社会システムデザインコース (SSD)

膨大なデータの分析とモデル化を行う技術、具体的な社会システム・サービスを設計・実装する技術、人々と社会・システムを高度に交流させる技術を学び、人間とICTが共存する未来の社会・システムを創造・実現する実践的能力を身に付けます。



## 4つのコース横断ユニット

各コースにおける高い専門性を軸として幅広い情報技術分野における知識の修得を目指した「ユニット」を導入しています。前述のコース選択にかかわらず、右記4つのユニットを自由に選択し、コース横断的に学びを深めることができます。各ユニットの科目群を履修し修了要件を満たすことで、認定証が授与されます。

※ユニットの選択と履修は卒業要件ではありません。  
※ISSEコースでは2028年度以降にユニットを導入予定です。  
※ユニットの種類や履修科目は今後変更となる場合があります。

### 実世界情報コース (実世界)

ICTを通じて人間と外界を結び、ヒューマンインタフェース、臨場感の高い仮想世界を体感するVR技術やAR/MR技術、身の周りのモノをネットワークにつなぐIoT、フィジカルAIを実現するロボット技術を学びます。



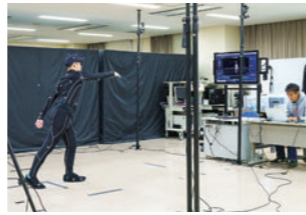
### メディア情報コース (メディア)

画像や音などの多様なメディアデータを活用する情報処理手法を学びます。特に、CG、情報可視化、VR/AR、画像処理・認識、音声認識・合成、音響情報処理、信号処理などの分野で最先端AI技術も駆使した研究に携わることができます。



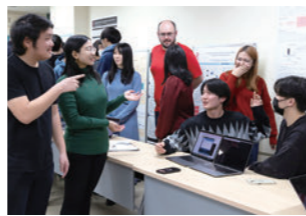
### 知能情報コース (知能)

自然現象や社会現象の計測データの解析をはじめ、数理モデル、シミュレーションやAIなどを運用する総合的な知識と技術を体系的に学びます。また、生体情報などの実データの取得と情報の抽出を通じて、知能情報システムを工学的に実現する能力を修得します。



### Information Systems Science and Engineering Course (ISSE)

情報工学分野に精通し、多種多様なコミュニティにおけるチームの一員として、グローバルに活躍できる人材を育成。授業を英語で行う科目のみで学位取得に必要な単位を取得でき、学生が自ら問題を発見し解決していく課題解決型学習が根幹となっているのが主な特長です。



ユニット名	主な履修科目
①データサイエンスユニット	確率・統計、データモデル論
②AIユニット	人工知能、機械学習
③DXユニット	情報倫理と情報技術、ソフトウェア工学
④IoTユニット	ネットワークセキュリティ、センシング工学

※ Information Systems Science and Engineering Courseのみ入学時にコースを決定

回生	1回生	2回生	3・4回生
セメスター	第1セメスター(春)	第2セメスター(秋)	第3セメスター(春) 第4セメスター(秋) 第5・7セメスター(春) 第6・8セメスター(秋)
学びの流れ	共通カリキュラムで情報科学技術の基礎から学び、1回生秋学期にコース配属※		コース専門科目で専門分野の知識を深める
基礎専門科目	数学1 数学3 数学演習1	数学2 数学4 数学演習2	
数理科目	Engineering Mathematics 1 情報基礎数学	Engineering Mathematics 2 Engineering Mathematics 3 確率・統計 フーリエ解析	Introduction to Differential Equations Introduction to Probability and Statistics 多変量解析 Engineering Mathematics 4 Statistical Analysis, Simulation, and Modeling 離散数学 数値解析
情報科目	情報理工基礎演習 情報倫理と情報技術 計算機科学入門 Introduction to Information Systems Engineering Professional Ethics Introduction to Experimentation	論理回路 Experimental Design	ソフトウェア工学 コンピュータネットワーク デジタル信号処理 計算機構成論 データベース オペレーティングシステム ネットワークセキュリティ コンピュータグラフィックス 人工知能
グローバルIT科目			Information Science in Action Presentation Plus 401 Writing for Publication 402
卒業研究科目			卒業研究2 卒業研究1 卒業研究3
コースごとに固有の演習科目、実験科目がほぼ全セメスターにあり、さまざまなテーマで演習・実験を行います			
システムアーキテクトコース	プログラミング演習1 システムアーキテクト演習 プログラミング言語 電気電子回路	プログラミング演習2 計算機科学実験1 データ構造とアルゴリズム ユーザビリティ工学	システムアーキテクト プログラミング演習 計算機科学実験2 計算機アーキテクチャ オブジェクト指向論 コンピュータプログラミング論 システムアーキテクト実験 メディア処理実験 データモデル論 IoT ヒューマンインタフェース
セキュリティ・ネットワークコース	プログラミング演習1 プログラミング言語 電気電子回路 セキュリティ・ネットワーク概論	計算機科学実験1 プログラミング演習2 セキュリティ・ネットワーク 開発演習 データ構造とアルゴリズム ユースティティ工学	計算機科学実験2 オブジェクト指向論 コンピュータプログラミング論 データモデル論 インターネット技術 システムソフトウェア構成論 セキュリティ・ネットワーク学実験 暗号理論 システムセキュリティ データ線形分析法 ヒューマンインタフェース データサイエンス
社会システムデザインコース	プログラミング演習1 プログラミング言語 社会システムデザイン概論	プログラミング演習2 社会システムデザイン創成1 データ構造とアルゴリズム オブジェクト指向論	実践プログラミング演習 テストマイニング Web情報技術概論 ヒューマンインタフェース Webアプリケーション 社会システムデザイン創成2 情報アクセス論 データマイニング基礎 機械学習 Webコンピューティング 社会デザイン論 知識工学 センシング工学 データ線形分析法 データサイエンス
実世界情報コース	実世界情報演習1 プログラミング演習1 プログラミング言語 電気電子回路	実世界情報実験1 プログラミング演習2 データ構造とアルゴリズム オブジェクト指向論	実世界情報実験2 実世界情報演習3 機械学習 ユビキタスコンピューティング 最適化数学 ロボティクス センシング工学 実世界情報処理 ロボティクス
メディア情報コース	プログラミング演習1 メディア計算機演習 プログラミング言語 電気電子回路	プログラミング演習2 データ構造とアルゴリズム メディア基礎数学 画像情報処理1	メディア実験2 メディアプロジェクト演習2 パターン認識 音声音響情報処理2 機械学習 オブジェクト指向論 コンピュータグラフィックス応用 画像情報処理2 実世界情報処理 Web情報技術概論
知能情報コース	プログラミング演習1 知能情報基礎演習 プログラミング言語 電気電子回路	プログラミング演習2 知能情報処理演習 データ構造とアルゴリズム 生体理工学 オブジェクト指向論	知能情報学実験 シミュレーション工学 センシング工学 心理物理学 知能情報システム創成 最適化数学 ロボティクス 機械学習 ヒューマンインタフェース データモデル論 心理物理学 コンピュータグラフィックス応用 音声音響情報処理1 パターン認識
Information Systems Science and Engineering Course	PBL1: Problem Analysis and Modeling Introduction to Programming Introduction to OOA, OOD, and UML	PBL2: Team-based Design Programming Practice 1 Programming Language	PBL3: Creative Design Programming Practice 2 Data Structures and Algorithms PBL4: Team-based Creative Design Imperative Programming Imperative Programming Practice Network Systems Human Interface PBL5: Design Evolution Distributed Systems Web Information Engineering Image Processing Systems Ergonomics Introduction to Robotic Systems Data Science Data Visualization Pattern Recognition and Machine Learning
キャリア養成プログラム		情報と職業 連携講座	
グローバルITプログラム		海外IT英語研修プログラム 海外IT専門研修プログラム	グローバルインターンシップ
情報系資格取得プログラム			情報技術実践1 情報技術実践2 情報技術実践3
MOT入門プログラム		技術経営概論 技術経営特論	イノベーション論 ファイナンス入門 ITを活用した業務改革入門 技術の事業化構想入門 ICT価値探求デザイン演習 プロジェクトマネジメント 基礎

・上記は2026年度のカリキュラムです。今後、科目名称等が変更になる場合があります。  
・上表はカリキュラムの一部です。詳細は、学部ウェブサイトをご参照ください。  
・上記の科目に加えて、学部の専門科目とは質的に異なる、幅広い分野の知識の修得を目指す科目を多数履修することができます。→ 教養科目 P.102

科目についての詳細は [オンラインシラバス](#) [立命館](#) [検索](#)

**外国語の選択** 英語※  
情報科学においては英語運用能力が重要とされるため、英語を学修し、情報科学分野で国際的に活躍できる人材の養成を目指します。  
※外国人留学生入試を経て入学した学生は日本語の履修可能

# 研究活動紹介

- SA システムアーキテクトコース
- SSD 社会システムデザインコース
- メディア メディア情報コース
- ISSE Information Systems Science and Engineering Course
- SN セキュリティ・ネットワークコース
- 実世界 実世界情報コース
- 知能 知能情報コース

**「ものづくり」をテーマに学び知識の集積だけではない実践力を養う。**


情報理工学に関わるさまざまな最先端の研究を行っています。知識を集積するだけでなく、活用し、実際に作って検証するというものづくりの実践を通じ、技術者として必要なIT技術の適格性を見極める力やシステム開発能力を養います。主体性・創造性を伸ばすことに加え、企画・管理・運営能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の向上を目指します。

**KEYWORD IoT**

関連コース SA SN 実世界 メディア ISSE

**研究例 H棟をデジタルツインで再現する**

大阪いばらきキャンパスのH棟はロボットバリアフリーかつスマートビルとして設計されています。センサーネットワークから収集されるデータをクラウドに集積してデジタルツインを実現します。アプリから食堂の混雑度や教室の快適度がリアルタイムに把握できます。




**KEYWORD コンピュータネットワーク**

関連コース SA SN

**研究例 低軌道衛星上のキャッシュからデータを配信**

2,000km以下の高度を周回する低軌道(LEO)衛星を用いたネットワークが、通信エリアの拡大や災害時の通信手段として注目されています。LEO衛星にキャッシュを搭載しデータを配信することで、地上サーバを用いない高速なデータ配信が期待できます。



## [2026年度 教員・研究テーマ一覧]

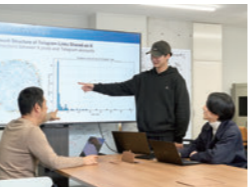
システムアーキテクトコース (SA)	
越智 裕之	FPGAと再構成可能アーキテクチャ、超低消費電力システム、集積回路設計自動化のためのアルゴリズムとデータ構造
斉 賀賢	量子計算、量子回路設計
組野 太一	認知情報学、ヒューマンロボットインタラクション、協調作業支援
高田 秀志	協調学習・協調作業支援、分散システム、ネットワークサービス、データベース
中村 優吾	ユビキタスコンピューティング、AIoT、行動変容デザイン
西尾 信彦	IoT、知的環境、組込みシステム、自動運転システム、位置情報システム
双見 京介	人間拡張工学、ヒューマンコンピュータインタラクション、ウェアラブル、ユビキタス、行動変容
横原 絵里奈	ソフトウェア工学、プログラミング教育、行動分析、教育データマイニング
丸山 勝久	ソフトウェア工学、ソフトウェア開発環境、プログラミング言語
村尾 和哉	ウェアラブル、ユビキタス、センシング、行動認識、生体情報
山下 茂	次世代計算方式、量子コンピュータ、量子回路設計、パイオチップ、Stochastic Computing
楊 詩語	ソフトウェア工学(実証的ソフトウェア工学)、プログラムソースコード解析
吉田 則裕	ソフトウェア工学、IoT、セキュリティ
魯 希琴	プログラミング学習支援システム、ソフトウェア工学
セキュリティ・ネットワークコース (SN)	
磯山 空道	メモリシステム、近似計算、仮想マシン、オペレーティングシステム、メモリセキュリティ
上原 哲太郎	システムセキュリティ、システム管理、デジタルフォレンジック
上山 憲昭	コンピュータネットワーク、キャッシュ配信、ネットワークセキュリティ、IoT
鏡 精精	画像フォレンジック、ディープフェイク、ダークウェブ、自然言語処理
西村 俊和	計算機仲介コミュニケーション、インターネットワーキング、移動体通信ネットワーク、機械学習
野口 拓	画像ネットワーク、IoT、センサネットワーク、コネクテッドカー
野島 良	暗号、耐量子計算機暗号、秘密計算、機械学習
宮地 秀至	安全な暗号方式の構成、ブロックチェーンシステムの構成
毛利 公一	オペレーティングシステム、仮想化技術、コンピュータセキュリティ、組込みシステム
山本 寛	IoT、センサネットワーク、ブロックチェーン、機械学習、組込みシステム
吉田 政望	アドホックネットワーク、IoT、センサネットワーク、ネットワークコーディング
社会システムデザインコース (SSD)	
泉 朋子	認知工学、ヒューマンコンピュータインタラクション、思い出工学、感性工学

**KEYWORD 情報セキュリティ**

関連コース SA SN

**研究例 データを安全に利活用するための暗号技術**

機械学習の利用による個人情報漏えいの問題に注目し、データを安全に活用するためのプライバシー保護と暗号技術を研究しています。医療やSNS、ブロックチェーンへの応用も視野に、実装や実験を通して安全性評価・脆弱性の探索や技術構築に日々取り組んでいます。




**KEYWORD Webシステム**

関連コース SA SN SSD ISSE

**研究例 心理的快適感に着目したファッションアイテムの推薦システム**

ファッションアイテム購入サイトの生地拡大画像と購入者レビューから、着用時の心理的快適感を予測するためのマルチモーダル深層学習モデルを開発しています。これにより消費者の生活環境や特徴に即して、快適に過ごせるファッションアイテムの推薦システム実現を可能にします。




**KEYWORD 情報デザイン**

関連コース SSD ISSE

**研究例 目の不自由な人向けの絵画鑑賞支援システム**

目の不自由な人でも絵画鑑賞を楽しんでもらうために、画像キャプション技術を用いて絵画の内容を文章や音声で説明する支援システムを研究しています。絵のどこに何が描かれているかを説明してくれるため、説明から絵の内容を頭の中で再構成が可能でです。



末村 徳信	知識工学、知識共有、オントロジー、人工知能
単 駿杰	人工知能応用、ヒューマンコンピュータインタラクション、自然言語処理
西原 陽子	ヒューマンコンピュータインタラクション、自然言語処理、人工知能、コミック工学
服部 宏充	マルチエージェントシミュレーション、社会システムデザイン、人工知能、議論・対話支援
原田 史子	感情コンピューティング、センサシステム、推薦システム、データサイエンス
Brendan John FLANAGAN	学習分析、教育における人工知能、AI学習支援、人間AI協調学習
前田 亮	デジタル図書館、情報検索、多言語情報処理、人文情報学
村上 陽平	サービスコンピューティング、コミュニケーション支援、人工知能、デザイン学
Mondheera PITUXCOOSUVARN	コンピュータ支援協調作業、異文化コラボレーション、協調学習
安尾 萌	ソーシャルメディア分析、情報の信頼性、コミュニケーション支援、自然言語処理
実世界情報コース (実世界)	
安藤 潤人	メカトロニクス、柔軟ロボット学、触覚テクノロジー、ファブリケーション
木村 朝子	実世界指向インタフェース、バーチャルリアリティ、複合現実感
柴田 史久	モバイルコンピューティング、複合現実感、マンマシンインタフェース
島田 伸久	知能ロボティクス、コンピュータビジョン、複合現実感、機械学習、ヒューマンコンピュータインタラクション
高橋 治輝	ヒューマンコンピュータインタラクション、デジタルファブリケーション
中村 文彦	ウェアラブルコンピューティング、ヒューマンインタフェース、表情認識、人間拡張
野間 春生	バーチャルリアリティ、触覚インタフェース、ハプティックVR、ヒューマンインタフェース、交通工学
藤井 康之	水上ロボット、自律移動ロボット
細田 侑也	音声強調、音声認識、画像解析、画像強調
遊比 由美	ヒューマンコンピュータインタラクション、ヒューマンロボットインタラクション、遊びによる介入、身体性認知科学
松村 耕平	ソフトウェア工学、認知心理学
満田 隆	ソフトウェア工学、認知心理学
李 周浩	知能ロボット、空間知能化、人工知能、ヒューマンインタフェース
メディア情報コース (メディア)	
榎田 貴弘	コンピュータビジョン、画像センシング、物理ベースビジョン

**KEYWORD インタラクション**

関連コース SA SSD 実世界 メディア 知能 ISSE

**研究例 遊び心のある介入で社会問題を解決する**

人が面倒だなあ、大変だなあ、なにか難しそうだなあと感じてしまうようなことに対して、情報システムに「あそび」を導入することで解決するインタラクション手法を研究しています。やってみてもいい、これなら続けられる、なんとなく頑張れる、というデザインを考えています。




**KEYWORD 人工知能**

関連コース SA SN SSD 実世界 メディア 知能 ISSE

**研究例 人の気持ちを理解・表現できる音声認識・生成技術**

コンピュータが、音声から誰が、どんな状況や気持ちで、何を話しているかといったさまざまな情報を理解し、またそれらの情報を反映した音声を作り出す技術を研究しています。これにより、例えばコンピュータが空気を読むといった、より人間らしいコミュニケーションが可能になります。




**KEYWORD 画像処理/CG**

関連コース SA SN SSD 実世界 メディア 知能 ISSE

**研究例 人の心を理解するための画像認識技術**

人工知能(AI)の発達により、画像に写る物体や人物を高精度に認識できるようになりましたが、人の意図や感情などといった心的状態を推定することはまだ容易ではありません。このような心的状態推定の実現を目指し、顔表情や目の動き、身体運動などを認識できる画像認識技術の研究に取り組んでいます。




歌 敏庭	音響信号処理、ピンスポットオーディオ
徐 達	歩容認識、EEG 認証、マルチモーダル生体認証、人間行動理解、3D人体解析
高島 遼一	音声認識、音声合成、音声信号処理
田中 賢一郎	コンピュータビジョン、コンピュータビジョン、光学センシング、機械学習
陳 延偉	知的画像処理、医用画像解析、コンピュータビジョン
永瀬 亮太郎	音声情報処理、パラ言語処理(感情など)
仲田 晋	コンピュータグラフィックス、計算機シミュレーション
西浦 敬信	音響信号処理、イマージングオーディオ、ピンスポットオーディオ、ノイズキャンセリング、異音検知
満上 育久	コンピュータビジョン、ヒューマンインタフェース、画像処理、VR/AR、人物行動解析
李 印豪	画像処理、コンピュータビジョン、深層学習
李 亮	画像処理、バーチャルリアリティ、コンピュータグラフィックス、可視化
劉 家慶	マルチモーダルAI、映像メディア処理、感情・認知・行動認識
知能情報コース (知能)	
明石 行生	視覚情報処理、心理物理学、照明工学、色彩工学
柏原 考爾	生体情報工学、人間医学、脳神経科学
金村 一輝	ニューラルネットワーク、理論神経科学、培養神経回路
川西 康友	コンピュータビジョン、マルチメディア処理、パターン認識、機械学習、AIによる科学研究
北野 勝則	脳の計算理論、ニューラルネットワーク
篠田 博之	視覚情報処理、色彩工学、心理物理学
宋 裕	コンピュータビジョン、深層学習、マルチモーダル大型モデル
坪 泰宏	脳情報理論、神経活動計測、統計モデリング、複雑ネットワーク
遠里 由佳子	計算生物学、機械学習、バイオ画像解析、時系列解析、データ駆動科学
西川 郁子	知能システム、機械学習、最適化
西 竜志	知能ロボティクス、最適化、スケジューリング、サプライチェーン
李 加一	人工知能、多モーダル学習、樹突神経モデル、大規模モデル
Information Systems Science and Engineering Course (ISSE)	
Alarith UHDE	Design for Wellbeing, Social Acceptability, Shift Planning, User-Centered Design, Social Practice Theory
Ibrahim KHAN	Game AI, Accessible Game Audio, LLMs for Games

**KEYWORD データサイエンス/ビッグデータ**

関連コース SA SN SSD メディア 知能 ISSE

**研究例 神経の活動データを解析し、脳の発達過程を理解する**

脳オルガノイドは、脳機能や脳疾患の理解を深める可能性を秘めています。その発達過程についてはまだ十分に理解されていません。脳オルガノイドの活動データを解析し、定量化・可視化することで、その発達過程や脳との構造・機能の違いを理解するための研究を行っています。




**KEYWORD 最適化**

関連コース SA SN SSD メディア 知能 ISSE

**研究例 AIを用いたロボットの知能化と知的システム計画に関する研究**

ロボットの知能化やロボットとその周辺機器からなるシステムの最適化手法の開発を行っています。ロボットの配置動作計画の最適化、記号列入力によるロボットのタスク計画、省エネルギー動作計画技法、ティーチングレスロボットの開発、複数台移動ロボットの経路計画、スケジューリングやサプライチェーンマネジメントなどの研究を行っています。



**KEYWORD シミュレーション**

関連コース SA SN SSD 実世界 メディア 知能 ISSE

**研究例 Project SonicSight**

AIは音のみで人間に勝てるか? Project SonicSightは、FPS等で「ブラインドAI」と人間の性能を比較。音響デザインを最適化し、AIの学習効率と人間のアクセシビリティを同時に高める環境を構築します。堅牢なAI開発と共に、視覚障害者向けの音を主軸としたゲーム指針の確立を目指します。



詳しくはこちら ▶ 

Uwe SERDÜLT	Digital Governance Systems, Digital Democracy, E-Government Applications, E-Participation
Valentinus Roby HANANTO	Data Science, Natural Language Processing, Business Intelligence, Software Development
Eric W.COOPER	Interactive Intelligent Systems, Kansei Engineering
Djedje Didier GOHOUROU	Graph learning, knowledge graph, natural language processing, data extraction
Shady SALAMA	Data Science, Machine Learning, Production Management.
Damon CHANDLER	Visual Information Engineering, Computational Perception, Image and Video Quality Assessment
Nicko CALUYA	Augmented reality, Human factors, Perceptual information processing
Victor KRYSSANOV	Data Science, IoT, e-Society, Statistical Modeling and Simulation, Smart City and Smart Farming
Mate KOVACS	Data Science, Deep Learning, Natural Language Processing
Ruck THAWONMAS	Game AI, Serious Games, Audience Participation Games
劉 文斌	Human-Robot Interaction, Rehabilitation Robots, Multi-agent Control
コア教育部門	
Jeremy WHITE	Mobile Assisted Language Learning, Mobile Language, Digital Literacy
杉野 直樹	第二言語習得論、英語教育学
杉森 直樹	英語コーパス言語学、英語教育学
谷村 緑	英語教育学、コミュニケーション研究
Barry Christopher CONDON	AI in Education, CALL, L2 Reading, Materials Design
加藤 正輝	特殊関数論
平岡 敬浩	整数論：クリフォード代数を用いた2次形式の算術理論
吉川 達	日本語教育学、第二言語習得論